

次ページへ続く

Continued on next page...

# 稀本零葉集八種索引稿

はじめに	57
凡例	58
稀本零葉八種細目	
(1) 蛾眉公子	60
(2) 倭刊聚葉	65
(3) 稀本零葉第一輯	70
同 第二輯	75
同 第三輯	79
同 第四輯	83
同 第五輯	87
同 番外	89
(4) 古活字版拾葉	91

渡 島 母  
 辺 原 利  
 守 泰 司  
 邦 雄 朗

(5) 紙魚玉屑集	96
(6) 古活字版聚芳	102
(7) 浮世草子聚芳	107
(8) 古版本聚芳	112
あとがき	117
書名綜合索引	122

はじめに

零本のうちから作品と版種を選び、糸を解いて一葉ごとを抜いて貼り込み、同好の士に配った、稀本の見本帖がある。これは、取り上げた零本のうち、最もページ数の少なかったものの丁数が、そのまま発行（ま

たは配布)部数になる、というたぐいのものであって、それ自体が稀観に属する。

もともと本好きが同志を募って作ってみたものようであるが、やがて古本屋仲間の催しとして盛んになる。稀本善本の手軽な実例集であつて、値段を考えるうえでの道具(トウル)として、恰好なところからである。それゆえ発行部数の多くは、古書店の奥深くしまい込まれているらしく、公私の文庫、図書館の蔵書中に見かけることは、多くない。

このたぐいに、奥の院からお出まし願おうというのであるが、それは売り手の側の手の内を明らかにし、もって買ひ手の利益を計ろうとするわけではない。書誌学、文献学にとつても貴重なこの資料を、国文学の利用にも供してみたいと思うから、である。あるいは、物語や和歌の研究における古筆手鑑のごとく、すでに散佚したと信じられている伝本や、いままで紹介されたことのない版種を、一葉ではあるが、出現させるかもしれない。そのためのインデックスを作ってみる——それが本稿の趣旨である。

その前に、この種の零葉の貼り込み帖に、しかるべき名称を与えてやらなくてはならない。一帖ごとには、あるいは洒落た、あるいは内容に即した名前の付いていることはもちろんながら、これらを総称する名称が、いままでなかったものようである。それゆえ、かりに、『稀本零葉集』と呼ぶこととする。

以下、稀本零葉集八種の内容を紹介し、書名による総合索引を添える。もとより零葉集はこの八種に限るものでなく、また内容の紹介も、不充

分なものであることは言を俟たない。それら量的質的な拡大充実は今後を期すこととし、とりあえず、この種の資料への注意を喚起するため、あえて公表するものである。

零葉ごとの書誌条項を主にした注記は、おおむね稀本零葉集の『解説』に従っているが、稀本零葉集を手鑑として活用するためには、この『解説』に厳密な批判を加える必要がある。この点も今後を期したい。タイトルに「稿」の一字のすわるゆえんも、そのあたりにある。

## 凡例

一 稀本零葉集のうち、今回調査の及んだ八種について、零葉ごとの細目を記し、書名索引を作った。

一 今回取り上げた零葉集およびその略号は次のごとくである。

蛾	蛾眉公子	昭6	一誠堂玉屑会	二冊
倭	倭刊聚葉	昭8	斎藤昌三	二冊
稀	稀本零葉	昭8~18	訪書会	六冊
活	古活字版拾葉	昭10	訪書会	二冊
紙	紙魚玉屑集	昭12	紙魚玉屑頒布会	一帙
聚	古活字版聚芳	昭40	文車の会	二冊
浮	浮世草子聚芳	昭46	文車の会	二冊
版	古版本聚芳	昭55	文車の会	二冊

一 細目には、零葉集ごとの簡単な解題を付し、図版を各一葉添えた。

一 稀本零葉集ごとに、所収の零葉に、整理のための番号を与えた。ただし『稀本零葉』全六冊（第一～五輯および番外）は、一輯ごとに番号を改めた。

一 書名および整理のための番号は、おおむね目次の順に従っているが、一ページに二点以上が収められている場合、あるいは目次と異なる零葉の貼付されている場合など、実態に従っている。それゆえ目次と若干異なることもある。

一 『稀本零葉』第四輯は、目次（五十点を記載）と実態（三十九点を貼付）とが大幅に齟齬する。これは底本に遺漏（貼付もれ）のあることに因むものらしい。それゆえ、この一冊に限って、整理番号は目次に従った。

一 零葉ごとの書誌は、おおむね次のごとくである。

書名 刊写の別 原本の書型および冊数

版種（整版本は記載を省いた） 刊年 匡郭およびその寸法（無辺の場合は字高） 半丁行数（古活字版は一行の字詰めと仮名の種類を添える） 界線 柱刻 刊記 その他

一 刊年などについては、原則として、底本所載の解題を踏襲し、明らかに誤りと思われる記載にのみ訂正を加えた。他本との照合については今後に期することとする。

一 貼付された零葉には、半丁にも満たず、書誌条項を十全に明らかにしえないものもある。それらについては、その旨注記した。

一 索引は、各零葉の書名を、現代仮名づかいによる読みに従い、五十

音順に配列した。

一 索引の書名は、おおむね細目の記載に従ったが、一部については、統一書名を新たに設けた。この場合「ヘカヲ見出し」を用いて検索の便とした。

一 索引の書名に刊写年および版式を添えた。

一 『稀本零葉』第四輯の、目次に書名の記載のみあつて貼付漏れのものについては、\*印を付けた。

蛾眉公子

(略号——「蛾」)

二巻二冊 一誠堂玉屑会編 昭和六年十一月 同会発行 三村竹清題字  
限定五十部

第一類仮名草子、第二類地誌(以上上巻)、第三類西鶴本、第四類浮世草子、第五類好色本、第六類八文字屋本に分つて五十種を収める。当時のことばでいわゆる「軟派」に絞る。その内容は十六、四、八、五、九、八点。序文に、在京某老大家(水谷不倒のこと)より譲られた零本七十種からの厳選という。西鶴本七点の併出は庄観。巻頭の目次に、書名・版種・刊年・完本冊数・頒布零葉巻数を示すほかは、各零葉についての解説はない。零葉は偶数ページに貼る(裏白)が、半丁に満たないものが十二点ある。また底本には挿絵の丁の貼付が多く十面に及び、書誌条項を明らかにするうえで、不便を感じる。

底本——都立中央図書館東京誌料(〇〇二七/一二)

第一類 仮名草子

1 保元物語 刊 大本三冊

寛永三年版 丹緑本 無辺 字高22・2センチ 半丁十二行 柱

刻「保元巻三 五」

2 伊勢物語 刊 大本二冊

古活字版嵯峨本 慶長十三年刊 無辺 字高23・5センチ 半丁

九行十七八字 平かな交じり 具引き色変り料紙 也足曳花押本

3 つきしま 刊 大本一冊

古活字版 元和頃刊 丹緑本 無辺 字高22・0センチ 一行十八字前後 平かな交じり 半丁に足りず、行数・寸法等不明 舞の本

4 中将姫の本地 刊 大本三冊

慶安四年版 無辺 字高18・7センチ 半丁に足りず、行数・寸法等不明 お伽草子

5 衣更着物語 刊 大本五冊

貞享五年版 四周単辺 20・2×16・2センチ 半丁十行 柱刻  
「衣更着物語下 〇廿五」 お伽草子

6 為愚痴物語 刊 大本八冊

寛文二年版 四周単辺 22・2×15・6センチ 挿絵の丁ゆえ行数等不明 柱刻「いくち六 十八」

7 大織冠 刊 大本二冊

寛永頃版 四周単辺 20・9× センチ 半丁に足りず、行数・寸法等不明 舞の本

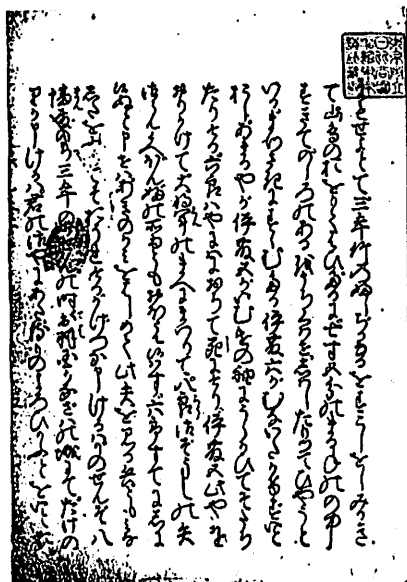
8 六阿弥陀伝記 刊 大本 冊数不明

明暦頃刊 四周単辺 23・3×16・8センチ 半丁十五行 柱刻  
「一番 廿一」

9 浮世物語 刊 大本五冊

寛文頃刊 四周単辺 21・1×15・9センチ 半丁十一行 柱刻  
「浮世物語巻二 五」 解説に寛文十年刊とあるが、それは各

61	延宝四年版	無辺	字高19・5センチ	半丁十行	丁付はウラの
62	延宝四年版	無辺	字高19・5センチ	半丁十行	丁付はウラの
63	延宝四年版	無辺	字高19・5センチ	半丁十行	丁付はウラの
64	延宝四年版	無辺	字高19・5センチ	半丁十行	丁付はウラの
65	延宝四年版	無辺	字高19・5センチ	半丁十行	丁付はウラの
66	延宝四年版	無辺	字高19・5センチ	半丁十行	丁付はウラの
67	延宝四年版	無辺	字高19・5センチ	半丁十行	丁付はウラの
68	延宝四年版	無辺	字高19・5センチ	半丁十行	丁付はウラの
69	延宝四年版	無辺	字高19・5センチ	半丁十行	丁付はウラの
70	延宝四年版	無辺	字高19・5センチ	半丁十行	丁付はウラの



半丁十四行の江戸版の刊年

10 十帖源氏 刊 大本十冊

万治四年版 無辺 字高19・5センチ 半丁十行 丁付はウラの

ノドに 三ノ廿六 のごとくある

11 おさな源氏 刊 大本十冊

延宝頃 四周単辺 22・4×16・7センチ 半丁十五行 柱刻「若

四 十」解説に寛文十年版とするが、それは無辺」十一行本

で別版

12 風流源氏物語 刊 大本六冊

元禄十六年版 四周単辺 20・1×14・8センチ 挿絵の丁ゆえ

行数等不明

13 義経記 刊 半紙本一冊

元禄二年版 四周単辺 20・1× センチ 半丁に足りず、行

数・寸法等不明 金平本

14 びじんくらべ 刊 大本二冊

万治二年版 四周単辺 21・5× センチ 半丁に足りず、行

数・寸法等不明 お伽草子

15 からいと 刊 大本二冊

寛文五年版 四周単辺 22・1× センチ 半丁に足りず、行

数・寸法等不明 柱刻「からいと上 八」 お伽草子

16 満仲 刊 大本二冊

延宝頃刊 四周単辺 22・4× センチ 半丁に足りず、行数・

寸法等不明 目次に書名を「多田の満仲」とする、舞の本

## 第二類 地誌

17 故郷帰りの江戸咄 刊 大本八冊

貞享四年版 四周単辺 22・1×15・5センチ 半丁十三行 柱

刻判読不能 刊記「貞享四<sub>丁</sub>卯歲／六月吉日／山下彦兵衛／藤翠屋

仁兵衛／鎗屋平右衛門／開板」

18 東海道名所記 刊 大本六冊

万治頃刊 四周双辺 20・7×15・4センチ 半丁十二行 柱刻

判読不能

19 増補江戸咄 刊 大本七冊

元禄七年版 四周単辺 21・7×センチ 半丁に足りず、行

数・寸法等不明

20 江戸鹿の子 刊 横本六冊

貞享四年版 四周単辺 8・3×14・2センチ 半丁十行 柱刻

「鹿子巻一 三」 底本は一丁分を二分して上下に貼る

## 第三類 西鶴本

21 武家義理物語 刊 大本六冊

貞享五年版 四周単辺 18・7×14・3センチ 挿絵の丁ゆえ行

数等不明 柱刻「武家義理物語巻一 四」

22 日本永代蔵 刊 大本六冊

貞享五年版 四周単辺 20・9×15・5センチ 半丁十三行 柱  
刻「大福新長者教 巻二 九」

23 西鶴織留 刊 大本六冊

元禄七年版 四周単辺 19・9×15・4センチ 挿絵の丁ゆえ行

数等不明 柱刻「世の人心六 十六」

24 好色盛衰記 刊 大本五冊

貞享五年版 四周単辺 18・9×13・9センチ 半丁十一行 柱

刻「盛衰記一 五」

25 新可笑記 刊 大本五冊

元禄元年版 四周単辺 17・9×センチ 半丁に足りず、行

数・寸法等不明 柱刻「新笑三 二十」

26 世間胸算用 刊 大本五冊

元禄五年版 四周単辺 18・6×13・5センチ 半丁十行 柱刻

「胸算用 五 四」

27 西鶴置土産 刊 大本五冊

元禄六年版 四周単辺 18・4×14・0センチ 半丁十一行 柱

刻「置土産 三」

28 西鶴伝授車 刊 大本五冊

享保元年版 四周単辺 18・7×12・7センチ 挿絵の丁ゆえ行

数等不明 柱刻判読不能

## 第四類 浮世草子

29 風流神代卷 刊 大本六冊

元禄十五年版 半丁18・6×13・4センチ 柱刻「風流一」 □

□

30 風流今平家 刊 大本六冊

元禄十六年版 四周单边 19・6×15・1センチ 挿絵の丁ゆえ

行数等不明

31 四民乗合船 刊 大本四冊

正徳四年版 四周单边 19・0×14・0センチ 半丁十二行 柱

刻判読不能 解説に享保二年刊とするが誤りか

32 紫大門屋敷 刊 大本五冊

宝永二年版 四周单边 19・4×15・1センチ 目次の丁ゆえ行

数等不明 柱刻判読不能

33 女大名丹前能 刊 大本八冊

元禄十五年版 四周单边 19・4× センチ 半丁に足りず、

行数・寸法等不明

第五類 好色本

34 小夜衣 刊 半紙本三冊

元禄十年版 四周单边 17・7×12・1センチ 挿絵の丁ゆえ行

数等不明 柱刻判読不能 同名書に、天和三年西村市郎右衛門作、

元禄二年懸河舟也作（いずれも半紙本五冊）があるが、諸目録に

元禄十年刊本を出さず

35 好色伊勢物語 刊 半紙本五冊

貞享三年版 四周单边 18・4×13・1センチ 半丁十行 首書

二十四行 柱刻「イセ一」 ○九 角書「首書／俗註」

36 本朝浜千鳥 刊 大本六冊

宝永四年版 四周单边 19・0×14・5センチ 半丁十一行 柱

刻「浜千鳥巻之一」 一 内題「ほんてうはまちどり本朝浜千鳥巻之第一」

37 女用訓蒙図彙 刊 半紙本五冊

貞享四年版 四周单边 18・7×13・3センチ 挿絵の丁ゆえ行

数等不明 柱刻「女用三」 六

38 人倫訓蒙図彙 刊 半紙本七冊

元禄三年版 四周单边 20・7×14・3センチ 半丁十三行 柱

刻「人倫二」 △十四 上下半分に仕切つて下段に挿絵

39 飛鳥川当流男 刊 大本六冊

元禄十五年版 四周单边 20・0×15・5センチ 半丁十二行 柱

刻「当流男巻一」 十二 角書「洛佳人」

40 色道懺悔男 刊 大本六冊

宝永四年版 四周单边 20・7×14・9センチ 半丁十一行 柱

刻「さんけ四」 ○五

41 八棟大島台 刊 大本六冊

宝永七年版 四周单边 17・3× センチ 半丁に足りず、行

数等不明 柱刻「大島台巻五」 十六

42 誰袖海 刊 大本六冊



宝永元年版 四周单边 20・0× センチ 半丁に足りず、行  
数等不明

第六類 八文字屋本

43 野傾旅葛籠 刊 横本五冊

正徳二年版 四周单边 10・9×16・4センチ 半丁十五行 柱

刻判読不能

44 傾城禁短気 刊 横本六冊

宝永八年版 四周双边 13・0×19・6センチ 半丁十四行

45 傾城武道桜 刊 横本五冊

宝永三年版 四周单边 10・5×16・2センチ 半丁十五行 柱

刻判読不能

46 分里艶行脚 刊 横本五冊

正徳六年版 四周单边 11・2×16・6センチ 半丁十四行 柱

刻「れ」 別にウラのノドに丁付が 艶二ノ卷十二のごとくある

47 兼好一代記 刊 横本五冊

元文二年版 四周双边 12・9×19・7センチ 半丁十四行

48 義経風流鑑 刊 横本五冊

正徳五年版 四周单边 11・2×18・0センチ 半丁十四行

49 五百崎虫の評判 刊 横本三冊

享保四年版 四周单边 8・5×12・7センチ 半丁十五行 柱

刻判読不能

50 世間旦那気質 刊 半紙本五冊

安永三年版 四周单边 20・3×15・1センチ 挿絵の丁ゆえ行

数等不明 柱刻判読不能 同年刊の再印本二種のうち

上下巻二冊 斎藤昌三編 田中敬序 昭和八年二月 書物展望社発行  
限定五十部

各種零葉五十種を収録。ただし、1 五山版『雪峯空和尚外集』、2 伏見版『貞観政要』など五点はコロタイプ印刷による縮小写真。それゆえ零葉の実数は四十五種四十八葉。14『倭藤太物語』、16『本朝風土記国名』など半丁に満たないものも少なくない。いずれも刊本であって、刊年に従って配列するが、幕末さらには明治期の活版印刷にまで至るのが特徴。印刷の歴史を零葉に托して語らせようとする意図に発したもののか。零葉を偶数ページに貼り、奇数ページに活字印刷によって解説を付す。解説は上巻では裏のページ、下巻では向い側のページに位置している。これは上巻が袋綴、下巻が粘葉装になっていることに関わるか。第一輯と銘うたれているが、二輯以下が刊行されたか否かは不明。斎藤氏は書物展望社の社主。個人の編集発行にかかる稀本零葉集は珍しい。

底本——国文学研究資料館(リ3/16)

1 雪峯空和尚外集 (写真)

五山版 貞和三年刊か 左右双辺 半丁十行 有界 巻末に「此版留在嵯峨印行」とあり 東北大学狩野文庫蔵本

2 貞観政要 (写真)

古活字伏見版 慶長五年刊 四周双辺 半丁八行十七字 有界

柱刻「貞観 跋」 刊記「慈眼久徳刊之」

3 太平記 刊 大本二十冊

古活字版 寛永頃刊 四周双辺 21・5×17・3センチ 半丁十  
二行二十四字前後 片かな交じり 漢字は片かなの附訓活字 柱  
刻「太平記三十七 二十二」 解説に慶長十年刊とするのは誤  
り

4 日本書紀 (写真)

古活字版 慶長十五年刊 四周双辺 半丁八行十八字 刊記「以  
勅本板行」

5 大蔵一覽集 (写真)

古活字駿河版 慶長二十年刊 四周双辺 半丁八行十七字 有界  
成實堂文庫蔵本

6 住吉物語 (写真)

古活字版 慶長頃刊 無辺 半丁十行十七字前後 平かな交じり  
活字は嵯峨本風 題簽を存し「住よし物語<sup>上</sup>」とある 笹野堅氏  
蔵本

7 大毘盧遮那成仏経疏 刊 半紙本五冊

高野版 元和二年三昧院刊 無辺 字高20・9センチ 半丁六行  
粘葉装両面刷 柱刻が折目のヤマの部分にあるが判読不能 一葉  
四面が見えるように貼付

8 新刊勿聴子俗解八十一難経 刊 大本四冊

元和三年京二条大黒町助衛門版 四周双辺 20・2×16・4セン

チ 半丁十一行 柱刻「難経卷五 三」

9 下学集 刊 大本二冊

元和三年版 四周单边 23・3×16・7センチ 半丁七行細字双行 柱刻「下学之下 廿三」

10 太平記 刊 大本二十冊

元和八年版 四周双边 21・4×16・7センチ 半丁十二行 柱刻「太平記廿九 十六」

11 和歌食物本草 刊 大本二冊

寛永七年版 无边 字高19・1センチ 半丁十二行 柱刻「哥本草下 十五」

12 塵劫記 刊 中本四冊

寛永十年版 四周单边 13・4×12・0センチ ただし見出語が匡郭をはみ出している 半丁十行 挿絵がカット風に文中に入る 柱刻「塵四 十五」 一丁を見開にして貼付

13 可笑記 刊 大本五冊

刊年不明 四周单边 21・1×16・8センチ 半丁十二行 柱刻「可笑記卷五 五十五」 解説に寛永十九年刊とするが、それは十一行本。これは寛永十九年版を底本に各半丁一行分をふやして覆刻したもの

14 たはら藤太秀郷 刊 大本 二冊

寛文九年版 四周单边 21・4×センチ 半丁に足りず、行数・寸法等不明 解説に「秀郷」を「秀卿」に誤り、また寛永刊

丹緑本とするが、刊記を「寛文九<sub>二</sub>年三月吉日」とする絵入十六行本と思われる

15 よし氏 刊 大本二冊

寛永正保頃刊 无边 字高20・1センチ 半丁十行 柱刻「よしうち上 二」 同名書が古浄瑠璃にもあるが、これはお伽草子。ただしこの版、「国書総目録」にも「室町時代物語類現存本簡目録」にも未載。わずかに「古浄瑠璃正本集」第六に言及があるのみ

16 本朝風土記国名 刊 大本二冊

慶安四年版 四周双边 21・1×センチ 半丁に足りず、行数・寸法等不明

17 算学啓蒙 刊 大本二冊

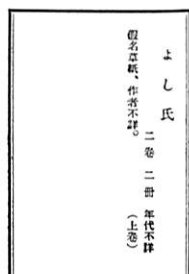
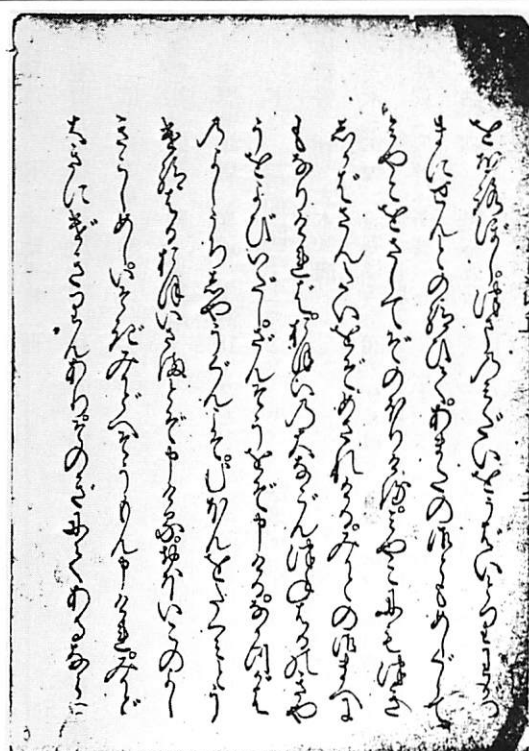
万治元年京田原二左衛門版 四周单边 21・1×14・4センチ 半丁九行 柱刻「啓蒙上 十五」

18 倭玉篇 刊 横本三冊

寛永頃刊 四周单边 11・8×18・7センチ 半丁十行 有界 柱刻「玉中 四十二」 横本一丁を二分して上下に貼付 解説は寛文年間刊とするが、カタカナ附訓・十行・四段という特徴をもとに、山田忠雄氏「本邦辞書史概説 附表」を検するとき、寛永五年版もしくはその刊記削除版と分かる。後者であろう

19 乱曲 刊 中本二冊

寛文八年版 无边 字高15・2センチ 半丁六行 柱刻「乱下



十九「掲出箇所は「花筐」一丁を見開にして貼付

20「梵文」刊 大本二冊

寛文九年版 四周单边 21・7×14・0センチ 半丁二行

21みなしぐり 刊 半紙本二冊

天和三年版 无边 字高15・7センチ 半丁九行 柱刻「下ノ七」

22日本永代蔵 刊 大本六冊

貞享五年版 四周单边 20・8×センチ 柱刻「大福新長者

教 卷一 五」

西鶴織留 刊 大本六冊

元禄七年版 四周单边 19・8×センチ 柱刻「世の人心三

七」

一ページに西鶴本二葉を貼付 いずれも半丁に足りず、行数・寸

法等不明

23当世曾我高名松 刊 大本五冊

正徳頃刊か 八文字屋本 四周双边 20・1×センチ 半丁

に足りず、行数・寸法等不明

24島原記 刊 大本三冊

宝永元年版 四周单边 21・7×16・7センチ 半丁十五行 柱

刻「嶋原 下 四」

25絵本太閤記大全 刊 中本七冊

宝永七年版 四周单边 16・0×センチ 半丁に足りず、行

数・寸法等不明 柱刻「太七」卷 四」 浄瑠璃六段本

26 傾城禁短気 刊 横本六冊

宝永八年版 四周双辺 13・1×19・5センチ 挿絵の丁ゆえ行

数不明 丁付はノドに 三巻きんたん十三のごとくある

27 世間母親容気 刊 半紙本五冊

宝暦二年版 四周单辺 19・6×  センチ 半丁に足りず、行

数・寸法等不明 初印本は寛延五年鱗形屋孫兵衛、芳野屋八郎兵

衛刊

28 五元集 刊 大本四冊

宝暦二年版 無辺 字高13・6センチ 半丁十行 柱刻「〇 十

二」

29 広大和本草 刊 半紙本十二冊

宝暦五年版 四周单辺 18・0×13・8センチ 半丁十行 柱刻

「広大和本草 卷八 〇三」

30 祇園祭礼信仰記 刊 半紙本一冊

宝暦七年版 無辺 字高18・7センチ 半丁十行 丁付はウラの

ノドに 信仰記三十のごとくある 浄瑠璃丸本

31 解体新書 刊 大本六冊

安永三年版 四周单辺 20・9×14・5センチ 掲出箇所は挿画

柱刻「〇解体新書 卷 〇十七」

32 紅毛雑話 刊 半紙本五冊

天明七年版 四周单辺 17・2×  センチ 半丁に足りず、行

数・寸法等不明

33 蘭学階梯 刊 半紙本二冊

天明八年版 四周单辺 18・3×13・2センチ 半丁九行 柱刻

「蘭学階梯 卷下 二十」

34 <sup>歌狂</sup>極彩色百人一首 刊 大本一冊

天明年間刊 四周单辺 20・6×14・9センチ 半丁に人物一人

を当てて肖像と狂歌一首を配する 木版多色刷

35 異人恐怖伝 刊 大本三冊

享和元年版 四周单辺 19・9×14・4センチ 半丁十行 柱に

文字なし

36 花鳥写真図彙 刊 半紙本六冊

文化二年京西村宗七版 四周单辺 17・9×13・7センチ 見開

一丁に花鳥それぞれ一を配したものか 木版多色刷

37 北郭鶏卵方 刊 中本一冊

寛政六年版 四周单辺 15・2×10・0センチ 半丁八行

<sup>辰巳編</sup>船頭深話 刊 小本一冊

文化三年版 四周单辺 12・6×8・8センチ 半丁八行、ただ

しト書は双行 丁付はウラのノド下部に「廿二」とある

一ページに洒落本二葉を貼付

38 和蘭語法解 刊 半紙本三冊

文化九年版 四周单辺 17・3×13・2センチ 半丁八行 柱刻

「和蘭語法解序 三」

39 <sup>万部</sup>修訂金草鞋 刊 中本合二十五冊

天保五年版 四周単辺 15・6×11・0センチ 八編と二十三編

をそれぞれ半丁ずつ貼付 合巻本

40 破れ家のつくり話 刊 大本三冊

木活字本 弘化四年版 四周単辺 18・6×12・4センチ 半丁

十行 有界 片かな交じり 句点あり 柱刻「破れ家ノツ、クリ

話 巻三 七

41 海外人物輯 刊 大本二冊

嘉永七年版 四周単辺 21・3× $\square$ センチ 半丁に足りず、行

数・寸法等不明 木板多色刷

42 英語箋 刊 中本二冊

文久元年版 四周単辺 14・7×9・3センチ 半丁八行二段 有

界 柱刻「英語箋 人倫 九」 見開一丁を貼付

43 仏語明要 刊 大本五冊

元治元年版 四周単辺 22・2×14・8センチ 半丁二十五行二

段 (横組) 柱刻「仏語明要 卷之三 二十三 達理堂蔵版」

(縦組) フランス語は横書 日本語は縦書にする

44 横浜吉原細見 刊 横本一冊

明治二年版 四周単辺 10・5×16・5センチ ローマ字入り、

スベルに誤りの多いのがご愛嬌

45 挿訳英吉利会話篇 刊 中本四冊

明治五年版 四周単辺 13・6×9・5センチ 各半丁七行有界

(横組) 柱刻「英会話挿訳 卷之四 卅二」(縦組)

46 <sup>入絵</sup> 鹿兒嶋征討全記 刊 四六判

活版和紙片面刷 明治十年版 四周双辺 14・9× $\square$ センチ

半丁に足りず、行数・寸法等不明 六、七丁一綴でおおよそ五日目

ごとに発行されたものという

47 沖繩対話 刊 半紙本二冊

活版和紙片面刷 明治十三年版 四周双辺 18・1×12・2セン

チ 半丁十二行

48 新体詩歌 刊 袖珍判一冊

活版両面刷 明治十六年和楽堂発行 一ページ十一行

49 <sup>学初</sup> 翻訳文範 刊 四六判十二冊

活版両面刷 明治十六年版 横組

50 新小説(雑誌) 刊 A5判

活版 明治二十一年版

# 稀本零葉

(略号——「稀一」六)

五輯五冊 別に番外一冊 訪書会編 昭八年〜十八年 部数等不明  
 月例会の席上配布された零葉を、会員各自が目次に従って並べかえたもの。それゆえ凡例・奥付に類する書誌的記述を欠き、詳細は不明。奇数ページに零葉を、向い側のページに謄写版刷りの比較的長文の解題を貼る。零葉は原則として一丁表裏両面を存し、乱れ版「源平盛衰記」(第二輯6番)は古活字・整版各一丁を貼るなど、周到な配慮がある。所収点数は、第一〜五輯各五十点か。第四輯三十九点(目次は五十点)、第五輯二十三点と零葉の数が少ないのは、しばしば現われる例会欠席を意味する書込みと無関係であるまい。ほぼ目次に従うものの、多少の出入りがある。配列は各輯、古版本、古活字版に始まり、年代ごと、ジャンルごととするが、第三、五輯(いずれも目次欠)はこの原則に外れる(配布の順に従ったものか)。番外一冊は底本独自のものらしい。所収四十二点是他輯に収めるところと重複するが、多くが巻首または巻末、すなわち内題や尾題(あるいは刊記)等を含む丁。これは不公平を恐れて配布を避けた丁の集積か。そうすると、底本は幹事役の旧蔵だったことになる。第五輯冒頭に伴直方自筆草稿一葉を貼るが、これは『名家真蹟譜』(昭13〜16訪書会)からの混入。よってこの一葉を除外した。なお本零葉集に限って通し番号をやめ、整理番号を一冊ごと改めた。

底本——国立国会図書館(〇二二・三/五二四一/六)

## ■稀本零葉第一輯

第一類 足利期又はそれ以前の刊本

1 排韻増広事類氏族大全 刊 半紙本十冊

五山版 足利初期刊 四周単辺 18・8×12・0センチ 半丁十

六行 有界 柱刻「庚七 七」

2 景德伝燈録 刊 大本十五冊

五山版(覆元版) 貞和四年刊 左右双辺 22・1×15・1センチ

チ 半丁十三行 有界 柱刻「伝第七 三」 刊記「貞和戊子

重刊于東山天潤庵玉峰刊行」

## 第二類 古活字版

3 太平記 刊 大本四十冊

古活字版 慶長十四年刊 字高23・2センチ 半丁十行十九〜二

一字 平かな交じり ウラのノドに「廿八之二十二」とある 刊

記「慶長巳酉年陽月既望存庵跋 才雪刊之」

4 妙法蓮華經文句 刊 大本十冊

古活字版 寛永頃刊 字高20・5センチ 半丁七行十七字 柱刻

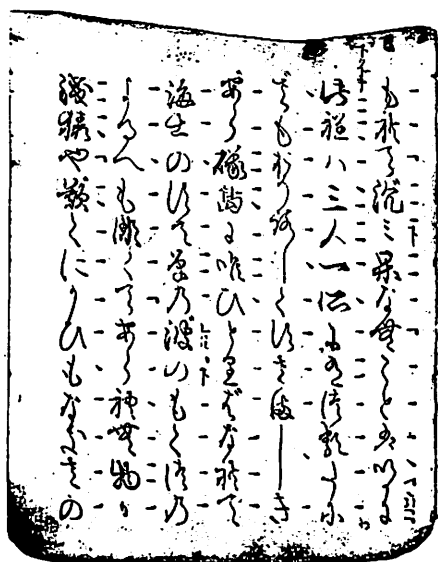
「文句一 四」

5 文選 刊 大本三十一冊

古活字版(覆宋版) 慶長十二年刊 四周双辺 24・8×16・4

センチ 半丁十行二十二字 有界 柱刻「文選七 五」 いわ

ゆる直江版

[illegible]

古活字版 慶長元和頃刊 四周双辺 22・5×17・4センチ 半

古活字版 嵯峨本 慶長十三年刊 無辺 字高22・6センチ 半

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 20・3×16・3センチ 半丁八

古活字版 寛永頃刊 四周単辺 22・5×16・8センチ 半丁十

古活字版 慶長元和頃刊 絵入丹緑筆彩色 無辺 字高21・3七

古活字版 嵯峨本 慶長頃刊 無辺 字高19・0センチ 半丁七

古活字版 嵯峨本 刊年不明 無辺 字高18・5センチ 半丁七



行十三字前後 観世流百番のうち曲名は「百万」 列葉装 胡粉  
引き色変り料紙 上製本

13 謡本 刊 半紙本一冊

古活字版 嵯峨本 刊年不明 無辺 字高19・0センチ 半丁七  
行十三字前後 観世流百番のうち曲名は「関寺小町」 袋綴並製  
本

14 曾我物語 刊 大本十二冊

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高23・5センチ 半丁十二行二十  
五から二十八字程度 平かな交じり

第三類 仮名草子

15 烏帽子折 刊 大本二冊

寛文頃刊 四周単辺 22・5×15・8センチ 半丁十四行 柱刻

「ゑほしおり上 二」

第四類 浮世草子

16 西鶴織留 刊 大本六冊

元禄七年版 四周単辺 19・9×15・8センチ 半丁十二行 柱

刻「世の人心五 七九」 刊記「元禄<sup>甲戌</sup>年／三月吉日／江戸万

屋清兵衛／大坂雁金屋庄兵衛／京上村平左衛門板」

17 風流源氏物語 刊 大本六冊

元禄十六年版 四周単辺 20・5×15・1センチ 半丁十行 柱

刻「源氏四 〇三」

18 男色大鑑 刊 大本八冊

貞享四年版 四周単辺 20・3×16・4センチ 半丁十二行 柱  
刻「大一 二」 刊記「貞享四<sup>丁卯</sup>年正月吉日／大坂伏見呉服町  
淀屋橋筋／書林 深江屋太郎兵衛／京二条通 山崎屋市兵衛／板  
行」とあって、その後に「江戸日本橋青物町 万屋清兵衛」

19 好色江戸紫 刊 半紙本五冊

貞享三年版 四周単辺 17・7×13・3センチ 半丁十二行 柱  
刻「紫 五 十一終」 刊記「貞享三年 八月吉日／作者石川  
氏／通油町版本」 半丁のみ貼付

20 西鶴俗つれづれ 刊 大本五冊

元禄八年版 京都田中庄兵衛 大坂八尾甚左衛門刊 四周単辺  
18・2×13・7センチ 挿絵面半丁のみの貼付ゆえ行数等不明 柱  
刻判読不能

21 日本永代蔵 刊 大本六冊

貞享五年版 四周単辺 21・1×15・3センチ 半丁十三行 柱  
刻「大福新長者教巻六 十一」 刊記「貞享五<sup>戊辰</sup>年正月吉日」

22 武家義理物語 刊 大本六冊

貞享五年版 四周単辺 18・8×14・5センチ 半丁十一行 柱  
刻「武家義理物語 巻四 十」

23 世間胸算用 刊 大本五冊

元禄五年版 四周単辺 18・4×13・8センチ 半丁十行 柱刻

「胸算用 三十」 刊記「元禄五<sup>壬午</sup>年初陽吉日」

24 諸国敵討 刊 半紙本八冊

元禄七年版 四周単辺 18・9×14・7センチ 半丁十二行 柱

刻「姿五 十」 刊記「元禄七<sup>申</sup>年五月吉祥日 西沢太兵衛板」

25 好色敗毒散 刊 半紙本五冊

元禄十六年版 四周単辺 18・8×13・1センチ 半丁十一行 柱

刻「好色敗毒散 卷一 〇八」 別に卷一の第12丁と都合二丁

を貼付

26 都花橋 刊 半紙本 冊数不明

刊年不明 四周単辺 18・7×13・8センチ 半丁行数十一行 柱

刻「都花橋一 七」 野間光辰氏「初期浮世草子年表」元禄七

年正月の項に、「都花橋 半紙本四冊 京都油屋宇右衛門板」とあ

り

27 新平家物語 刊 大本八冊

元禄十六年版 四周単辺 18・8×14・2センチ 半丁十行 柱

刻「粕都平家物語卷二 八」

## 第五類 古版地誌

28 江戸雀 刊 大本十二冊

延宝五年版 四周単辺 23・2×17・4センチ 挿絵面半丁のた

め行数等不明 柱刻判読不能 刊記「延宝五年<sup>丁巳</sup>仲春日 武州江

戸住 菱川吉兵衛／江戸大伝馬町 鶴屋吉右衛門版」

29 出来齋京土産 刊 大本七冊

延宝五年版か 四周単辺 21・1×16・6センチ 半丁十二行 柱

刻「巻之二 十五」

30 東海道名所記 刊 大本六冊

万治二年版 四周双辺 21・0×15・7センチ 半丁十二行 柱

刻「道行四 十三」

31 江戸鹿の子 刊 横本六冊

貞享四年版 四周単辺 8・3×14・2センチ 柱刻「鹿子巻二

二」 刊記「江戸京橋新両替町 書林 小林太郎兵衛」

32 南都名所集 刊 大本十冊

延宝三年版か 無辺 字高21・2センチ 半丁十二行 柱刻「な

ら一 十二」 挿絵の丁のみ匡郭あり 四周単辺 22・0×16・

1センチ

33 山城名所寺社物語 刊 半紙本六冊

享保頃版 四周単辺 18・2×14・0センチ 半丁十一行 柱刻

「京の花 巻之六 八」

## 第六類 八文字屋本

34 商人軍配団 刊 大本五冊

正徳二年版 四周単辺 20・1×16・0センチ 半丁十一行 柱

刻「世渡二之巻 三」

35 歌行脚懷硯 刊 半紙本四冊

宝曆十一年版 四周单边 19・5×14・5センチ 半丁十二行 柱  
刻判読不能

36 傾城風流杉盃 刊 横本三冊

宝永二年版か 四周单边 10・3×16・0センチ 半丁十五行 柱

刻「杉盃 □二の巻 △六」

37 風流友三味線 刊 横本五冊

享保十八年版 四周单边 11・0×16・8センチ 半丁十四行 柱

刻「三之巻 友 ○廿九」

38 傾城手管三味線 刊 横本五冊

享保十一年版 四周单边 10・8×16・9センチ 半丁十五行 柱

刻「五 ○八」

39 其磧置土産 刊 大本五冊

元文三年版 四周单边 20・0×15・3センチ 半丁十二行 柱

刻「巻之三 五」

40 傾城情の手枕 刊 横本五冊

寛保四年版 四周双边 13・0×19・7センチ 半丁十四行 丁

付はウラのノドに **第五七** とある **「野傾旅葛籠」** の改竄改題

本

41 野傾旅葛籠 刊 横本五冊

刊年不明菊屋版 四周单边 10・9×16・1センチ 半丁十五行

柱刻「五ノ巻 四」 刊記「寺町四条下ル丁／菊屋長兵衛」

第七類 絵本

42 和国百女 刊 大本三冊

元禄八年版 四周单边 21・4×15・7センチ 文字は半丁十七

行 師宣絵本

43 和国諸職絵尽 刊 大本二冊

貞享二年版 四周单边 21・9×15・2センチ ただし、上辺か

ら約5センチのところで上下に分け、上部は四周双边で文字（職

人歌合）、下部は絵と文字 柱刻「しよく人上 二十」 師宣絵

本

44 文正草子 写 横本二冊か

奈良絵本 元禄頃写か 紙の大きさ約15・3×24・0センチ 半

丁十三行

45 人倫訓蒙図彙 刊 半紙本七冊

元禄三年版 四周单边 20・5×14・2センチ 半丁十三行 柱

刻「人倫二 △十五」 蒔絵師源三郎絵

46 女用訓蒙図彙 刊 半紙本五冊

貞享四年版 四周双边 18・8×13・6センチ 半丁を上下左右

四面に区切つて各一図 柱刻「女用一 十八」 吉田半兵衛絵

47 百人女郎品定 刊 大本二冊

享保八年版 四周单边 22・7×17・7センチ 丁付はオモテの

ノドに **上百女一** 匡郭は絵の丁のみ 文字の丁は無辺 半丁六

行（稀六）28番をみよ） 西川祐信絵

48 姿絵百人一首 刊 半紙本一冊

元禄八年版 四周单边 19・2×14・4センチ 上辺から約5センチのところで横線にて上下に分け、上段に文字(百人一首)、下段に絵を配す 柱刻「姿絵 四十一」 師宣絵本

第八類 金平本

49 公平かぶとろん 刊 半紙本一冊

金平本 天和頃刊 四周单边 19・2×14・9センチ 半丁十七行 柱刻判読不能

50 武知三浦一二のあらそひ 刊 半紙本一冊

金平本 寛文頃刊 四周单边 20・0×14・9センチ 半丁十六行 柱刻判読不能

■稀本零葉第二輯

第一類 足利期又はそれ以前の刊本

1 論語 刊 大本二冊

天文二年版 阿佐井野氏刊 四周单边 20・7×17・6センチ 半丁七行十四字 有界 柱刻「九」 いわゆる「天正版論語」

第二類 古活字版

2 日本書紀 刊 大本 三十卷三十冊(あるいは十五冊)

古活字版 元和寛永頃刊 四周双辺 20・5×14・2センチ 半

丁八行十六字 柱刻「日本紀 五十七」

3 大和物語 刊 大本二冊

古活字版 元和頃刊 無辺 字高21・4センチ 半丁十二行二十一字前後 平かな交じり 柱刻なし

4 うつほ物語 刊 大本二冊

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高22・5センチ 半丁十二行二十一字前後 平かな交じり 柱刻「うつほ」

5 太平記 刊 大本 四十冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 22・3×16・8センチ 半丁十二行二十五六字前後 片かな交じり 柱刻「太平記九 三」

6 源平盛衰記 刊 大本二十四冊

古活字版 寛永頃刊 四周双辺 22・7×16・4センチ 半丁十二行二十五字前後 片かな交じり 柱刻「盛衰記卷十四 八」

「盛衰記卷十三 十九」(二紙収録) 漢字は振りがな付き活字 いわゆる乱れ版で、整版と活字版の二葉貼付

7 漢書 刊 大本五十冊

古活字版 寛永五年刊 四周双辺 21・7×16・6センチ 半丁十行十七字 柱刻「前漢誌八上 八」 刊記「寛永第五戊辰曆菊

月廿一日 於洛陽本能寺前刊行焉」

8 後漢書 刊 大本三十冊

古活字版 寛永中刊 四周双辺 21・8×16・6センチ 半丁九行十七字 有界 柱刻「後漢志二十 八」

9 山谷詩集 刊 大本四冊

古活字版 元和頃刊か 四周双辺 22・2×17・1センチ 半丁

九行十八字 柱刻「山谷巻八 五」

10 東坡先生詩 刊 大本二十五冊

古活字版 慶長中刊 四周双辺 21・6×17・2センチ 半丁九

行十五字 有界 柱刻「坡詩四 八」 解説の標題は「増刊校

正王状元集註分類東坡先生詩」

11 三略秘鈔 刊 大本三冊

古活字版 元和寛永頃刊 四周双辺 21・1×15・5センチ 半

丁十三行二十四字 片かな交じり 柱刻「三略上 二」

12 格知余論抄 刊 大本五冊か

古活字版 元和頃刊 四周双辺 21・8×15・5センチ 半丁十

二行二十四字 片かな交じり 柱刻「格致抄一 二」

第三類 近世初期整版本

13 易林本節用集 刊 大本二冊

慶長頃刊 四周单辺 22・7×18・1センチ 半丁七行 柱刻「節

用集 二十四」

14 謡本 刊 半紙本一冊

元和卯月本 元和六年刊 無辺 字高18・9センチ 半丁八行

観世流百番のうち曲名は「たまかつら」 胡蝶装

第四類 仮名草子

15 よだれかけ 刊 大本二冊

刊年不明 四周单辺 21・0×14・9センチ 半丁十行 柱刻「よ

たれかけ 二ノ十二」 巻二の末に「崑慶安元著雍困敦稔 星

鳥中流 模倣軒」の奥書あり

16 名女情比 刊 大本五冊

延宝九年版 四周单辺 19・8×15・0センチ 半丁十一行 柱

刻「名 巻之四 十六」

第五類 浮世草子（八文字屋本）

17 好色一代男 刊 大本八冊

天和二年上方版 四周单辺 20・1×15・3センチ 半丁十一行

柱刻「男四 六」 別に同巻第22丁（挿絵、裏白）の都合二丁

を貼付

18 本朝桜蔭比事 刊 大本五冊

元禄二年版 四周单辺 19・9×15・6センチ 半丁十二行 柱

刻「桜蔭巻二 九」

19 好色文書筆 刊 半紙本四冊

元禄頃刊 四周单辺 16・0×12・0センチ 半丁八行 柱刻「文

かき筆四 一」

20 好色大和噺がほ 刊 半紙本四冊

元禄前後刊 四周单辺 18・1×13・4センチ 半丁十一行 柱

刻「一 十一」

21 日本新永代蔵 刊 大本六冊

正徳三年版 四周単辺 20・2×14・8センチ 半丁十一行 柱

刻「日本新永代蔵巻一 〇九」

22 好色旅日記 刊 大本五冊

貞享四年版 四周単辺 19・7×14・1センチ 半丁十一行 柱

刻「日記三 十三」

23 色道懺悔男 刊 大本 六冊

宝永四年版 四周単辺 20・7×15・1センチ 半丁十一行 柱

刻「さんけ四 〇七」

24 新武道伝来記 刊 大本五冊

宝永三年版 四周単辺 19・6×14・3センチ 半丁十一行 柱

刻「新武道 巻二 六」

25 傾城難波土産 刊 横本五冊

宝永七年版 四周単辺 10・4×16・1センチ 半丁十五行 柱

刻「なにはみやけ三 ▲二」

26 義経風流鑑 刊 横本五冊

明和四年大坂升屋版 四周単辺 11・2×17・8センチ 半丁十

四行 柱刻「義経五巻 十二」 正徳五年八文字屋版の求版本

27 兼好一代記 刊 横本五冊

元文二年版 四周単辺 13・1×19・5センチ 半丁十四行 丁

付がウラのノドに「二ノ巻一代記十ノ廿」とある

第六類 古版地誌

28 京童 刊 大本六冊

明暦四年版 四周単辺 20・4×15・0センチ 半丁十一行 柱

刻「二巻 十四」

29 河内名所鑑 刊 大本六冊

延宝七年版 西村七郎兵衛刊 四周単辺 21・7×15・5センチ

半丁十一行 柱刻「河内鑑巻四 廿二」

30 故郷帰の江戸咄 刊 大本六冊

貞享二年版か 四周単辺 21・7×15・7センチ 半丁十二行 柱

刻「江戸咄五 〇五」

第七類 絵本

31 大和絵づくし 刊 大本三冊

延宝八年版 四周単辺 23・3×16・6センチ 上辺四・七セン

チに横線 上部が文 下部が絵 文は半丁十六行 柱刻判読不能

刊記「延宝八<sup>庚申</sup>年五月上旬 大和絵師／菱川吉兵衛尉／板本所／

大伝馬三丁目鱗形屋二左衛門」 師宣絵本

32 ふくざつしよ 刊 大本一冊

貞享四年版か 四周単辺 20・1×15・7センチ 半丁を五区分

し、各区分上部は挿絵 柱刻「五」 巻末に「さるゑんをもとめ

此書を懇望して強<sup>あがら</sup>にうつしとり菱川の画工にたよりて絵を図し板

行しむるのみ 日本絵菱川／三月吉日 柏屋与市」とあり 師宣  
繪本

33 東海道分間圖 刊 折本五帖

元禄年中刊 無辺 丹緑手彩色 一折の大きさ26・5×14・5セ  
ンチ 師宣圖

34 彩画職人部類 刊 大本二冊

天明四年版 四周单边 20・3×15・8センチ 下部に絵 上部  
に文散らし書 文は半丁十四五行 柱刻なし 明和八年版の再刻  
本

第八類 金平本

35 やうめい天王恋のまき 刊 半紙本一冊

元禄頃刊か 四周单边 19・2×14・0センチ 半丁十七行 柱  
刻「さんろ」

36 子四天王北国大合戦 刊 半紙本一冊

寛文二年版 四周单边 19・7×14・3センチ 半丁十六行 柱  
刻「ほつこく 十五」

第九類 咄の本

37 醒睡笑 刊 中本三冊

慶安元年版 四周单边 15・9×12・0センチ 半丁九行 柱刻  
「醒睡下 五」 刊記「慶安元子戌歲初秋吉日」

38 日待ばなしこまざらひ 刊 中本二冊

寛文頃刊か 四周双边 16・0×12・0センチ 半丁十二行 柱  
刻「はなし 上 八」

第十類 古版歌謡書

39 松の葉 刊 半紙本五冊

元禄十六年版 四周单边 19・6×13・5センチ 半丁十行 丁  
付はウラのノドに「五ノ十三」とある

40 松の落葉 刊 半紙本六冊

宝永七年版 四周单边 18・0×13・2センチ 半丁十二行 柱  
刻「五 五」

第十一類 古武鑑

41 古武鑑 刊 横本二冊

元禄十四年以前刊 四周单边 10・7×16・3センチ 半丁九行  
有界 柱刻「廿二」

42 古武鑑 刊 横本二冊

延宝八年以前刊 四周单边 9・2×14・7センチ 半丁行数不  
定 柱刻「上 十」

43 丁卯江戸鑑 刊 横本二冊

貞享四年版 松会刊 四周单边 10・5×15・7センチ 半丁行  
数不定 柱刻「九」

第十二類 雜

44 曾我物語 刊 大本十二冊

寛永頃刊 四周单边 20・9×15・9センチ 半丁十二行 柱刻

「曾我巻三 十六」 丹緑本

45 かけきよ 刊 大本二冊

明暦四年版 四周单边 21・4×16・2センチ 半丁十四行 丁

付がオモテのノドに「景下八」とあり 刊記「明暦四年戌九月吉

日 山田市郎兵衛開板」 舞の本三十六番のうち

46 増補書籍目録 刊 横本二冊

寛文十年版 四周单边 10・7×16・4センチ 半丁十一行 有

界 柱刻「九十三」(陰刻) 刊記が、上巻々頭総目録の終りに「寛

文十<sup>庚戌</sup>季秋吉旦／江戸本町三丁目 西村又右衛門／京寺町誓願

寺前 西村又左衛門」とある

47 能之訓蒙図彙 刊 横本四冊

貞享四年版 四周单边 9・2×14・7センチ 半丁十一行 有

界 柱刻「十日」<sup>(下五)</sup>

48 日本異国往来記 刊 半紙本二冊

元禄九年版 四周单边 17・3×12・2センチ 半丁十五行 柱

刻「異国往来記 下五」

49 四体千字文 刊 大本一冊

慶長十一年刊 白文(陰刻) その寸法22・9×17・2センチ 半

丁六行 柱刻「千字文 一七」 刊記「慶長丙午歳 春枝開板」  
50 妙法蓮華經 写

平安末、鎌倉初写 紺紙金泥 四周及び界線は銀 天地18・7セ  
ンチ 一行十七字

■稀本零葉第三輯

1 三十六歌仙 刊 大本一冊

元和寛永頃刊 嵯峨本 四周单边 27・6×21・0センチ 半丁

に歌仙図一図、和歌一首六行書

2 色道仮寝枕 刊 横本三冊

正徳頃刊か 四周单边 10・7×16・5センチ 半丁十五行 柱

刻「二之巻 十三」 「魂膽色遊懷男」(其碩作 五巻五冊)の

改題本 但しかなルビに異同があり、覆刻本の介在が考えられる

3 古武鑑 刊 中本一冊

寛文十年版 四周单边 15・6×12・0センチ 半丁十二行 有

界 柱刻判読不能 刊記「寛文十<sup>庚戌</sup>年六月吉辰通塩町七兵衛板」

4 古武鑑 刊 横本二冊

貞享頃刊 四周单边 10・5×15・7センチ 半丁十二行前後 有

界 柱刻判読不能 「五十一 本所御奉行」の記事未刻

5 隆興仏教編年通論 刊 大本十四冊

古活字版 寛永頃刊 四周单边 23・3×17・0センチ 半丁十



一行二十一字 有界 柱刻「編年卷廿 七」 見開きでない半丁を二葉貼付 もう一葉は柱刻欠 所収零葉は、刊本の表紙裏貼に使用されていたものごとく、他丁（他本）が重なって刷られたと思しき汚れが見える

6 可笑記 刊 中本五冊

万治二年版 四周単辺 17・1×12・2センチ 半丁十二行 柱刻「可笑記卷四 五十」 絵入本 後印か

7 一目玉鉾 刊 大本四冊

元禄二年版 四周単辺 22・6×15・9センチ 半丁十六行 柱刻「一目玉鉾 卷四 八」 刊記「元禄二年巳正月吉日／大坂

高麗橋心齋橋筋南入町／雁金屋庄左衛門板」

8 風流好色十二段 刊 大本六冊

元禄十五年版 四周単辺 20・3×14・5センチ 半丁十行 柱刻「十二段 四 七」 別に巻五の第15丁オモチ半丁の都合一丁分を貼付

9 (逸題浮世草子) 刊 半紙本 冊数不明

元禄七年版 四周単辺 17・6×13・4センチ 半丁十一行 柱刻「志四 十二」 解題は「好色四季ばなし」と推定するが誤り

10 昨日は今日の物語 刊 中本二冊

寛永八年版 無辺 字高16・8センチ 半丁九行 柱刻「下六」 10と次の11の解題挿しかわる

11 塵滴問答 刊 大本一冊

古活字版 元和頃刊 無辺 字高22・5センチ 半丁十一行二十字 平かな交じり

12 可笑記 刊 大本五冊

寛永十九年版 四周単辺 21・0×15・5センチ 半丁十一行 柱刻「可笑記 卷二十」

13 伽婢子 刊 大本十三冊

寛文六年版 四周単辺 22・3×15・2センチ 半丁十二行 柱刻「伽子卷十三 八」 刊記「寛文六<sup>丙午</sup>曆三月吉日／寺町通円福寺前町／秋田屋平左衛門板本」

14 舞台三津扇 刊 横本五冊

享保七年版 四周単辺 9・5×14・5センチ 半丁十五行 柱刻「十八」

15 妙法蓮華經 刊 八巻

春日版 鎌倉中後期刊 無辺 字高20・8センチ 一行十七字 料紙黄紙

16 大般若經 刊 六百巻

春日版 室町中頃刊か 無辺 字高20・2センチ 一行十七字 行間に、「四百内 五帙 一<sup>不明</sup>□ 十四」とあり 丁付ならん

17 源氏小鏡 刊 大本三冊

古活字版 元和寛永頃刊 無辺 字高22・1センチ 半丁十二行 二十二字前後 平かな交じり 二種の活字を混用する

18 東坡先生詩 刊 大本二十五冊

五山版 南北朝頃刊 左右双辺 19・7×12・8センチ 半丁十

一行 有界 注文双行 柱刻「<sup>(不明)</sup>□二十三 三十二」 覆宋元版  
か 解説の標題は「<sup>(王扶元)</sup>蘇東坡詩集」

19 都ひるながた 刊 半紙本五冊

元禄四年版 四周单辺 18・9×13・8センチ 丁付はオモテの

ノドに「都離五ノ九」とある 伝本稀 刊記「元禄二二曆<sup>辛未</sup>春青

陽吉辰月／洛下錦小路通新町西<sup>江</sup>入町 永田調兵衛尉／同三條通

油小路東へ入町 西村市郎右衛門 梓行」

20 男色木目漬 刊 大本六冊

元禄十六年版 四周单辺 20・6×15・0センチ 半丁十二行 柱

刻「男色木目漬卷一 十八」

21 まつら長者 刊 半紙本一冊

享保頃鱗形屋版 四周单辺 19・8×13・6センチ 半丁十七行

柱刻「<sup>(不明)</sup>□□□十二」 絵入 いわゆる六段本

22 妙法蓮華經 刊 八巻

春日版 室町初頃刊か 無辺 字高22・1センチ 一行十七字

23 会稽曾我物語 刊 半紙本

正徳享保頃刊か 四周单辺 20・0×14・3センチ 半丁十二行

行間に節付あり 絵入土佐節正本

24 三人法師 刊 半紙本二冊

元禄頃刊か 四周单辺 15・9×11・6センチ 底本所収零葉は

挿絵のみ半丁分 刊記「三人ぼうし 下終 西村屋新版」

25 蟠釣舟集 刊 横本三冊

延宝二年版 四周单辺 11・8×18・4センチ 半丁十六行 柱

刻「春 七」 貞門の撰集の中でも、早く散逸書とされ、僅か

に「詞林金玉集」(延宝七年成立)の所収句から、その面影を想像  
するにすぎなかった撰集

26 役者胎内搜 刊 横本三冊

宝永六年版 四周单辺 9・7×14・6センチ 半丁十五行 柱

刻「三段目 <sup>(不明)</sup>□□」 刊記「宝永六年丑三月吉日／ふや町せいぐ

わんじ下ル町 八文字屋八左衛門板」

27 科註妙法蓮華經鈔 刊 大本十二冊

古活字叡山版 寛永二年刊 四周单辺 23・0×16・5センチ 半

丁十一行十七字から二十字前後 柱刻「法北五末 十三」 小

型活字を用い、字間に送りがな(片かな)と返り点を付す 二種

以上の異種活字を混用し、極めて不揃いに見える

28 聚分韻略 刊 小本一冊

慶長十七年版 四周单辺 13・1×11・8センチ 半丁九行 有

界 柱刻「六十六」 刊記「慶長壬子季春吉辰」

29 片言 刊 横本五冊

慶安三年版 四周单辺 11・9×18・0センチ 半丁十一行 柱

刻「五ノ八」

30 烏帽子折 刊 大本二冊

寛永頃刊か 無辺 字高20・1センチ 半丁十行 柱刻「烏帽子折 二」挿絵の丁のみ四周単辺17・9×12・9センチの匡郭あり 丹緑本

31 愛敬昔色好 刊 横本三冊

正徳四年版か 四周単辺 11・1×17・8センチ 半丁十四行

32 大日本いろはの始 刊 中本一冊

享保九年版 四周単辺 16・5×11・8センチ 半丁十七行 柱刻判読不能 破損甚し 刊記「享保九年辰正月吉日 大伝馬三町目／鶴屋喜右衛門板」

33 資治通鑑綱目 刊 大本五十九冊

宋版 左右双辺 21・2×15・2センチ 半丁八行 有界 注文双行 柱刻「大二十四  
小四十四 通鑑綱目十七 九 西余」

34 碧巖錄 刊 大本五冊

五山版 南北朝頃刊か 四周双辺 18・1×11・5センチ 半丁十一行 有界 柱刻「碧岩三 五」

35 論語 刊 大本二冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 21・6×15・2センチ 半丁七行十七字 有界 注文双行 柱刻「論語七 六」 若手の異種活字を交ぜる

36 好色訓蒙図彙 刊 小本三冊

貞享三年版 四周単辺 13・2×9・7センチ 半丁十行 柱刻「二十六」

37 史記 刊 大本五十冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 22・9×17・2センチ 半丁八行十七字 有界 注文双行 柱刻「史記 紀六 七」

38 五家正宗贊 刊 大本四冊

古活字版 慶長十三年刊 四周双辺 20・1×15・6センチ 半丁九行十七字 柱刻「正宗洞 九」

39 大仏物語 刊 大本二冊

寛永十九年版 四周単辺 21・5×15・6センチ 半丁十行 柱刻「大下 十」 刊記「寛永十九年暮春吉日」

40 軽口露がはなし 刊 半紙本五冊

元禄四年版 四周単辺 18・5×13・9センチ 半丁十行 柱刻「露はなし二 四」

41 北条九代記 刊 中本七冊

元禄十二年版 四周単辺 16・2×12・0センチ 半丁十六行 柱刻判読不能

42 倭玉篇 刊 大本三冊

慶長十五年版か 四周双辺 20・6×17・0センチ 半丁七行 有界 柱刻「和玉篇卷十一 廿一」

43 忠義武道播磨石 刊 半紙本六冊

宝永八年版 四周単辺 20・0×14・7センチ 半丁十二行（但し底本所収零葉は、八行のみにて、四行分の余白を残す半丁）

44 円悟心要 刊 大本四冊

古活字版 寛永三年刊か 四周双辺 22・7×15・3センチ 半  
丁十一行二十字 柱刻「心要上 十七」 二種の異種活字が混  
用される

45 観心十二部経 刊 大本

古活字叡山版 元和頃刊か 四周单辺 22・8×15・2センチ 半  
丁十行二十字 柱刻「観心誦経法

+

-

46 傾城色三味線 刊 横本五冊

元禄十四年版 四周单辺 10・7×16・8センチ 半丁十五行 柱  
刻「岡之巻 色三味線 四」

47 竹斎 刊 大本二冊

寛永年中刊 無辺 字高21・2センチ 半丁十一行 柱刻「竹斎  
上 三十」 版木が欠けたのか、第31丁ウラ七・八・九行の各  
末尾文字が、ニミリ弱づつ欠けている

48 施氏司馬法講義 刊 大本四十二冊

古活字版 元和頃刊 四周双辺 19・7×15・3センチ 半丁十  
行二十字 段落の初行以外は行頭を一字下げて、一行十九字詰  
柱刻「司馬講義二十 二」 整った版式である

49 新可笑記 刊 半紙本五冊

元禄元年版 四周单辺 17・8×13・3センチ 半丁十一行 柱  
刻「新笑五 二十二」 刊記「元禄元戊辰十一月吉日／江戸日  
本橋 万屋清兵衛／大坂真斎橋筋呉服町角 岡田三郎右衛門 板  
行」

50 釈迦の本地 刊 大本三冊

寛文二年版か 四周单辺 20・5×15・9センチ 半丁十三行 柱  
刻「釈迦本地中 十八」 あるいは刊記を削った後印本か

■稀本零葉第四輯

第一類 古活字版

1 義経記

底本欠（寛永十年刊）

2 沙石集 刊 大本十冊

古活字版 元和四年刊 四周单辺 23・0×16・8センチ 半丁  
十二行二十八字前後 片かな交じり 柱刻「沙石 二上 五」

3 花伝書

底本欠

4 孟子抄

底本欠

5 史記 刊 大本五十一冊

古活字版 慶長元和頃刊 四周双辺 21・5×16・8センチ 半  
丁八行十七字 柱刻「史記傳一 十五」

6 山谷詩集注 刊 大本十冊

古活字版 慶長頃刊か 四周双辺 21・3×16・5センチ 半丁  
八行十七字 有界 柱刻「山谷十五 十二」

7 名医類案 刊 大本十冊

古活字版 慶長元和頃刊か 四周双边 21・6×15・3センチ 半

丁十一行二十二字 柱刻「類按卷三 十九」 慶長から寛永に

かけて医書を出版した梅寿刊行

8 済民略方 刊 横本三冊

古活字版 元和寛永頃刊か 四周双边 12・0×17・3センチ 半

丁十三行十二字 注文双行 柱刻「畧方下 七」 7と同じく

梅寿刊行になるか

9 法華秀句 刊 大本五冊

古活字叡山版 元和寛永頃刊 四周双边 22・8×15・5センチ

半丁十行二十字 柱刻「秀句中本 二十四」

10 維摩経略疏 刊 大本十冊

古活字叡山版 元和二年刊 四周双边 22・8×17・7センチ 半

丁十一行二十字 柱刻「維摩□ 八 七」

11 大般涅槃経 刊 折本三十巻

古活字天海版 寛永年中刊 无边 字高21・8センチ 一行十七

字 天海版一切経のうち

12 (印信集) 刊 冊数不明

古活字高野版 寛永頃刊か 无边 字高13・4センチ 一行十二

字 小型活字を用いて、送りがなを行間に植字する

13 伊勢物語

底本欠(伝光悦本)

14 義経記

底本欠(丹緑本)

第三類 仮名草子

15 ものくさ太郎 刊 大本二冊

寛文延宝頃刊か 四周单边 21・7×16・1センチ 半丁十四行

柱刻判読不能 卷末に「松会開板」とあるよし 紙質悪し

16 正文草子 刊 大本二冊

寛文四年版 四周单边 21・5×16・8センチ 半丁十一行 柱

刻「ふんしやう上 六」 刷り鮮明 初刷本か

17 あさがほ 刊 大本二冊

寛文四年版 四周单边 22・2×15・9センチ 半丁十四行 柱

刻「あさかほ □□」<sup>(不明)</sup> 刊記「寛文四<sup>甲</sup>年三月吉日／山本九兵

衛板」

18 熊野の本地 刊 大本三冊

寛永頃刊か 四周单边 21・4×16・1センチ 半丁十一行 柱

刻判読不能

19 毘沙門天王之本地 刊 大本三冊

承応三年林長衛門版か 四周单边 18・9×14・7センチ 半丁

十行 柱刻「中 十四」

第二類 近世初期整版本

20 三人法師 刊 小本二冊

元禄ごろ西村屋版 四周単辺 15・9×12・0センチ 半丁十六

行 柱刻「三人 下初十二」 刊記「西村屋新版」 所収零葉

は下巻第一丁で、「三人ほうし 下」と内題あり

21 竹斎 刊 半紙本二冊

寛文頃刊 四周単辺 16・1×11・9センチ 半丁十四行 柱刻

「ちくさい 上 十六」〔稀三〕47番とは別版

22 本朝廿四孝 刊 半紙本三冊

元禄十年版 四周単辺 17・7×13・5センチ 半丁十一行 柱

刻「本朝二十四孝 巻下」〔不明〕刊記「元禄十<sub>丁</sub>年正月吉日／

絵師鳥井庄兵衛／平野屋 松倉宇兵衛／開板」 初版初刷本の零

葉か

第四類 浮世草子

23 御前義経記 刊 大本八冊

元禄十三年版 四周単辺 19・8×15・6センチ 半丁十二行 柱

刻「御前義経記巻六」〔不明〕

24 子孫大黒柱 刊 大本六冊

宝永六年版 四周単辺 19・3×15・2センチ 目録の丁ゆえ行

数等不明 柱刻「大黒柱巻六 一」 所収零葉は、巻六目録の

一丁分で、内題に「子孫大黒柱巻之六」とあり

25 武道三国志 刊 大本十冊

正徳二年版 四周単辺 20・1×14・9センチ 半丁十三行 柱

刻「武四」〔不明〕

26 野傾旅葛籠 刊 横本五冊

正徳二年版 四周単辺 10・7×16・7センチ 半丁十五行 柱

刻「ヤケイ三ノ巻 十二」

27 義貞艶軍配 刊 大本五冊

寛延二年版 四周単辺 19・9×15・9センチ 半丁十二行 柱

刻判読不能

28 当世御伽曾我

底本欠

29 当世乙女織 刊 大本七冊

宝永三年版 四周単辺 20・7×15・7センチ 半丁十二行 柱

刻「當世乙女織 巻之七 四」 刊記「宝永三<sub>丙</sub>年正月吉日／

書林 大坂本町壱丁目／松寿堂万屋彦太郎板行」

30 今川当世状 刊 大本六冊

正徳三年版 四周単辺 20・9×16・1センチ 半丁十一行 柱

刻「今川五之巻（以下欠損）」 所収零葉は中央下部欠

31 いせ伝受紙子 刊 横本五冊

宝永七年版 四周単辺 10・8×16・6センチ 半丁十二行 柱

刻「三之巻 紙子 十六」

32 栄華遊二代男

底本欠（宝暦五年版）

第五類 古版地誌及古浄瑠璃本

33 江戸名所記 刊 大本七冊

寛文二年版 四周单边 21・1×16・4センチ 半丁十一行 柱

刻「江戸名所記卷三 十一」

34 〔京町鑑〕 刊 横本二冊

延宝頃刊か 四周单边 9・3×14・9センチ 半丁十八行 柱

刻「京かゝみ 卅五」 刊記「山本七良兵衛板」

35 刈萱道心

底本欠

36 しんとく丸 刊 半紙本一冊

寛文頃刊 四周单边 19・6× センチ 半丁に足りず、行

数・寸法等不明 説経浄瑠璃 佐渡七太夫正本か 永田有翠旧蔵

本

37 北条五代記

底本欠

38 東鑑三代將軍 刊 半紙本七冊

宝永四年版 四周单边 16・0×11・9センチ 半丁十七行 柱

刻「東六 十一」 刊記「宝永四年丁亥正月吉日 大伝馬三丁目

うろこ形や孫兵衛刊」 古浄瑠璃

39 新增書籍目録 刊 横本三冊

天和元年江戸山田喜兵衛版 四周单边 7・9×17・5センチ 半

丁十四行 有界 柱刻「書籍中 十三」

40 新板増補書籍目録 刊 横本六冊

元禄十一年版 四周单边 8・8×14・0センチ 半丁十二行 柱

刻「新增補目録六 二」 刊記「元禄十一年中冬日 再板 丸

屋源兵衛刊」

41 太平武鑑

底本欠（元禄二年版）

42 女諸礼集 刊 大本六冊

万治三年版 四周单边 20・6×15・5センチ 半丁十二行 丁

付はオモテのノドに一ノ六とある〔紙〕2とは別版

43 歌舞名物同異抄 刊 大本三冊

正徳五年版 四周单边 20・8×14・9センチ 半丁十行（但し

所収零葉は八行と余白二行分） 柱刻「歌舞名物同異抄中 三

十二」 上々の刷り

44 鷹筑波集 刊 横本五冊

寛永十九年版 無辺 字高11・2センチ 半丁十三行 柱刻「三

十五」 後印本か

45 犬子集

底本欠（寛永二十一年版）

46 能仕舞手引 刊 横本七冊

元禄十年版か 四周单边 9・1×13・7センチ 半丁毎に二図

を収める 柱刻「十一」 所収零葉は本文なく、附図一冊のうち

装飾匡郭

47 翠釜亭戯画譜 刊 大本一冊

天明二年版 四周单边 19・9×12・9センチ 半丁一図 所収

零葉は「音羽治郎三」似顔絵

48 鹿の巻筆 刊 半紙本五冊

貞享三年版 四周单边 18・9×13・7センチ 半丁十一行 柱

刻「鹿」 八九八九

49 鹿の子はなし 刊 半紙本三冊

元禄三年版 四周单边 16・3×11・5センチ 半丁十二行 柱

刻「二十不明」

50 (軽口噺) 刊 半紙本五冊

元禄元年版か 四周单边 18・5×センチ 半丁に足りず、

行数・寸法等不明

■稀本零葉第五輯

1 新色三ツ巴 刊 大本六冊

宝永三年版 四周单边 20・0×14・4センチ 半丁十行 柱刻

判読不能

2 山谷詩集 刊 大本四冊

古活字版 元和寛永頃刊 四周双边 21・5×16・7センチ 半

丁十行十九字 柱刻「山谷十八 三」 一丁分を貼付

3 なぞの巻 刊 中本二冊

宝永頃刊 四周单边 18・4×13・4センチ 半丁四行 柱刻「な

十」 一丁分を貼付

4 風流飛鳥川 刊 半紙本六冊

刊年不明 四周单边 19・4×14・4センチ 半丁十行 柱刻判

読不能 宝永三年版「新色三ツ巴」の改題本

5 秘蔵宝鑑 刊 半紙本三冊

高野版 室町末刊 無辺 字高19・4センチ 半丁六行 両面刷

一葉を貼付 原態は粘葉装か

6 古今韻会挙要 刊 大本十五冊

古活字版 慶長頃刊 四周双边 21・5×15・2センチ 半丁八

行小字二十三字双行 有界 別に小字二行二字分の大字、括弧付

活字、白文(陰刻)活字等を使用 柱刻「韻会八 七」

7 諸国安見回文之絵図 刊 小本一冊

天和頃刊 四周单边 12・9×9・3センチ 上下に区切つて下

部に挿絵 半丁十六行 柱刻「四」 刊記「松会開板」 別に柱

刻を「三十」とする一丁と都合二丁を貼付

8 西鶴俗つれく 刊 大本五冊

元禄八年版 四周单边 18・0×13・6センチ 半丁十一行 柱

刻「俗つれく巻一 九」

9 洞房語園 刊 大本二冊

宝暦明和ころ刊 四周单边 21・7×15・0センチ 半丁十行 柱



刻「下 卅三」

10 世当 輕口咄そろへ 刊 半紙本五冊

延宝七年版 四周単辺 18・1×13・0センチ 半丁八行 柱刻

「にかわらひ三 〇七」

11 輕口御前男 刊 半紙本五冊

元禄十六年版 四周単辺 17・2×13・4センチ 挿絵の丁ゆえ

行数等不明 柱刻「御前おとこ四 七」

12 輕口扇のまと 刊 半紙本五冊

享保十二年版 四周単辺 16・1×13・0センチ 半丁八行 柱

刻「三 四」 天和二年版「当世噺譚八百卷」の改題再版本

13 輕口あられ酒 刊 半紙本五冊

宝永二年版 四周単辺 17・9×13・4センチ 半丁十行 柱刻

「露休はなし二 六」 元禄頃刊「露休はなし」の改題本

14 名物 露休しかた咄 刊 半紙本五冊

刊年不明 四周単辺 18・0×13・5センチ 半丁十行 柱刻「露

休三 四」 元禄頃刊「露休はなし」の改題本 ただし同じく

改題本の「輕口あられ酒」と版式を異にする

15 古今書籍題林 刊 横本二冊

延宝頃刊 四周単辺 7・2×17・2センチ 半丁十五行 有界

柱刻「題林歴代 百十二」

16 恨之介 刊 大本二冊

寛永頃刊 無辺 字高20・6センチ 半丁十二行 柱刻「上 十

六」

17 保元軍物語 刊 半紙本三冊

元禄宝永頃刊 四周単辺 16・3×  半丁に足りず、行数・

寸法等不明 刊記「うろこかたや  」  
開板か 古浄瑠璃

18 風流日本荘子 刊 大本五冊

元禄十五年版 四周単辺 20・9×15・3センチ 半丁十行 柱

刻「日本荘子巻〇一 〇九」

19 千尋日本織 刊 半紙本六冊

宝永四年版 四周単辺 17・9×13・3センチ 半丁十一行 柱

刻「日本織四 〇廿五」

20 武道三国志 刊 大本十冊

正徳二年版 四周単辺 20・3×14・9センチ 半丁十三行 柱

刻判読不能

21 声字実相義 刊 大本一冊

高野版 鎌倉南北朝頃刊 無辺 字高20・5センチ 半丁六行

両面刷一葉を貼付 原態は粘葉装か

22 大毘盧遮那経疏 刊 大本二十冊

応永頃刊 無辺 字高20・3センチ 半丁六行 柱刻折目のヤマ

に「大廬 本十七」 一葉四面を貼付 粘葉装両面刷

23 俳諧友ちから 刊 横本一冊

元禄十六年版 四周単辺 7・3×13・5センチ 半丁十二行 柱

刻「△三」

■稀本零葉第六輯（番外）

1 武家義理物語

第一輯 22 番に同じ 巻一の巻頭三丁を貼付

2 新武道伝来記

第二輯 24 番に同じ 巻二の巻頭二丁を貼付

3 大和物語

第二輯 3 番に同じ 上巻々首ほか一丁都合二丁分を貼付

4 古武鑑

第二輯 42 番に同じ 上巻の巻頭二丁を貼付

5 好色大和咲がほ

第二輯 20 番に同じ 巻一の巻頭半丁を貼付

6 好色一代男

第二輯 17 番に同じ 巻四の巻頭二丁を貼付

7 源平盛衰記

第二輯 6 番に同じ 巻十三の巻首一丁を貼付

8 日待ばなしこまざらひ

第二輯 38 番に同じ 上巻の巻頭三丁を貼付

9 名女情比

第二輯 16 番に同じ 巻四の巻頭二丁を貼付

10 子四天王北国大合戦

第二輯 36 番に同じ 上巻の巻首ほか二丁を貼付  
11 色道懺悔男

第二輯 23 番に同じ 巻四の巻頭二丁および巻五巻首の都合三丁を貼付

12 彩画職人部類

第二輯 34 番に同じ 序文一丁を貼付

13 丁卯江戸鑑

第二輯 43 番に同じ 巻首一丁を貼付

14 醒睡笑

第二輯 37 番に同じ 下巻の 2・23・24 丁の三丁を貼付 いずれも

巻首で、目録あるいは内題あり

15 三略秘鈔

第二輯 11 番に同じ 上巻の巻首一丁を貼付

16 謡本

第二輯 14 番に同じ 「玉葛」の巻末の粘葉装一葉四面（ただし終りの二面に文字なし）を貼付

17 太平記

第二輯 5 番に同じ 巻十の巻首一丁を貼付

18 漢書

第二輯 7 番に同じ 巻八上の巻首一丁を貼付

19 松の落葉

第二輯 40 番に同じ 巻六の巻首一丁を貼付

20 曾我物語

第二輯44番に同じ 卷三の巻首一丁（裏白）を貼付

21 東海道分間図

第二輯33番に同じ 卷二の巻首を貼付

22 東海道名所記

第一輯30番に同じ 卷四の巻首一丁を貼付

23 歌行脚懷硯

第一輯35番に同じ 第三卷の巻末一丁を貼付

24 排韻増広事類氏族大全

第一輯1番に同じ 卷七の第16丁一丁を貼付

25 春秋経伝集解

第一輯8番に同じ 卷五の巻首と卷六第12丁の都合二丁を貼付

26 好色敗毒散

第一輯25番に同じ 卷四の終丁一丁を貼付

27 山中常盤

第一輯10番に同じ 第11丁一丁を貼付

28 百人女郎品定

第一輯47番に同じ 卷首一丁を貼付

29 傾城情の手枕

第一輯40番に同じ 卷五の第18・20丁（うしろ見返し、表紙付き、刊記あり）の都合二丁を貼付 刊記「江戸書房 舛屋五郎右衛門／同 信濃屋平左衛門／京書林 川勝五郎右衛門／板元／寛保四年

きのへ子ノ正月新板」

30 景德伝灯録

第一輯2番に同じ 卷八の第8丁・終丁の都合二丁を貼付 終丁  
ウラに「釈氏希渭刻梓／虎巖禪幽之庵」とあり

31 文選

第一輯5番に同じ 卷七の第31・32丁の二丁を貼付

32 東坡先生詩

第二輯10番に同じ 卷四の巻首一丁を貼付

33 能之訓蒙図彙

第二輯47番に同じ 卷四の巻首一丁を貼付

34 兼好一代記

第二集27番に同じ 卷二上の巻頭二丁を貼付

35 可笑記

第三輯12番に同じ 卷四の巻首一丁を貼付

36 風流好色十二段

第三輯8番に同じ 卷四、卷五の巻首都合二丁を貼付

37 故郷帰の江戸咄

第二輯30番に同じ 卷五の巻首一丁を貼付

38 山谷詩集

第二輯9番に同じ 卷六の巻首一丁を貼付

39 日本異国往来記

第二輯48番に同じ 下巻の巻末二丁を貼付 跋文に「元禄九丙子

「年畧雉上弦」の年記あり 刊記「書店 榎並甚兵衛」

40 格知余論抄

第二輯12番に同じ 巻一の巻首一丁を貼付

41 四体千字文

第二輯49番に同じ 第2丁の一丁を貼付

## 古活字版拾葉

(略号——「活」)

二(乾坤) 卷二冊 反町茂雄編 川瀬一馬校 昭和十年八月 訪書会発行 限定四十部

第一部国書(乾卷)、第二部漢籍、第三部仏典に分け、日本の古活字版五十種を収録。その内訳は、国書二十九、漢籍十、仏典十一。奇数ページに零葉を貼り、向い側のページに比較的長文の解説を活字印刷によって付す。零葉は各半丁、ただし横本の二点(25「匠材集」、29「済民記」)は一丁を二分して上下に貼る。本書の特色は、一に古活字版に種類を限り、系統的な類聚をこころがけたこと、二に零葉を必ず半丁以上掲出したこと、にある。訪書会叢書第二編。同会が会員に配布を続けていた零葉標本(「稀本零葉」のことか)の別冊。

底本——東京都立中央図書館東京誌料(〇〇二七/一六)

## 第一部 国書

1 日本書紀 刊 大本十五冊

古活字版 慶長頃刊 四周双边 21・0×14・5センチ 半丁八行十六字 柱刻「日本紀二 六十四」 各行行頭に一字分の余白あり

2 日本書紀抄 刊 大本三冊

古活字版 慶長元和頃刊 四周单边 24・0×16・4センチ 半丁十四行二十二から二十八字 片かな交じり 柱刻「日本紀抄下

五

3 万葉集 刊 大本二十冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 23・0×16・3センチ 半丁八行十八字 無訓 柱刻「万葉巻十 六」 伏見版の活字を流用したもの、という

4 万葉集 刊 大本二十冊

古活字版 慶長元和頃刊 四周双辺 23・0×17・2センチ 半丁八行十八字 別に片かなの小型活字を用いて、行間に訓を植字する 柱刻判読不能

5 伊勢物語 刊 大本二冊

古活字版 嵯峨本 慶長十三年刊 無辺 字高23・5センチ 半丁九行十七八字 平かな交じり 具引き色変り料紙 也足曳花押本

6 字津保物語 刊 大本二冊

古活字版 元和頃刊 無辺 字高21・5センチ 半丁十一行十九字 平かな交じり 柱刻「上 四十」

7 枕草子 刊 大本五冊

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高22・5センチ 半丁十三行二十二字前後 平かな交じり 柱刻「一 廿四」

8 平治物語 刊 大本三冊

古活字版 元和寛永頃刊 無辺 字高22・0センチ 半丁十二行二十二字 平かな交じり 濁点付活字、ルビ付活字を用いる

9 平家物語 刊 大本十二冊

古活字版 元和頃刊 四周单辺 23・5×16・7センチ 半丁十行二十三字前後 片かな交じり 柱刻「平家巻十 □□」

10 平家物語 刊 大本十二冊

古活字版 寛永頃刊 四周双辺 22・9×16・5センチ 半丁十行二十四字前後 片かな交じり 柱刻判読不能

11 太平記 刊 大本二十冊

古活字版 慶長十四年刊 無辺 字高24・0センチ 半丁十行二十十字 平かな交じり 濁点付活字および若干のルビ付活字を用いる 刊記「慶長己酉年陽月既望存庵跋 才雲刊之」

12 太平記 刊 大本二十冊

古活字版 慶長元和頃刊 四周双辺 21・9×17・6センチ 半丁十二行二十三字前後 片かな交じり 柱刻「太平記五 六」

13 太平記 刊 大本二十冊

古活字版 元和頃刊 四周双辺 22・7×17・0センチ 半丁十二行二十六字前後 片かな交じり 柱刻判読不能

14 太平記 刊 大本二十冊

古活字版 寛永頃刊 四周双辺 21・9×17・2センチ 半丁十二行二十一字から二十五字 片かな交じり ルビ付活字、濁点付活字を用いる 柱刻「太平記十九 十九」

15 太平記 刊 大本二十一冊

古活字版 元和二年刊 四周单辺 23・3×17・2センチ 半丁

第一日本書紀

完本は三十卷十五冊、所収の書本は卷の二です。日本書紀の最古の版本は慶長四年の松島屋天泉の勘定本であり、これは神代卷二巻だけである事は御承知の通りです。完本としては慶長十五年松島野子三郎の政のあるものを最古としますが、寛永までには寛永が数回再行されました。本書はその中の一つで、慶長切の再行にかゝるものでせう。慶長十五年版と比較しますと印刷面は總頁共に約五六分づゝ小さくなつて居り、一行の字數も二行（十五年版の十八字數に對し本書は十六字數）少くなつて居ります。用ひて居る活字も別のものであると認められます。注の體裁も違つて居ります。元來、神代卷だけの再行らしく、御本は寧ろ慶長十五年版よりも細れてゐるとして、密録の目錄・入札等でも餘り見掛けませぬが、價値も價格も幾分に劣る事は申すまでもありません。

到於吾田長盛強快之御時彼處有一  
神名曰事勝國勝長快故天孫問其神曰  
國在耶對曰在也因曰隨勒奉矣故天孫  
留住於彼處其事勝國勝神者是伊弉諾  
尊之子也亦名鹽土若翁  
一書曰天孫幸木山杵神之女子吾由鹿  
葦津姬則「夜有身遂生四子故吾由鹿  
葦津姬抱子而來進曰天神之子寧可以

十二行二十四字前後 片かな交じり 柱刻「太平記九 六」刊  
記「時丙辰歲次元和二孟秋上旬日」

16 曾我物語 刊 大本十二冊

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高23・2センチ 半丁十一行二十  
七字前後 平かな交じり

17 曾我物語 刊 大本十二冊

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高24・1センチ 半丁十二行二十  
八字前後 平かな交じり

18 吾妻鏡 刊 大本五十一冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 23・2×17・7センチ 半丁十  
二行二十字 注文双行 伏見版の翻刻という

19 沙石集 刊 大本十冊

古活字版 元和四年刊 四周单辺 23・6×17・1センチ 半丁  
十二行二十四字から二十八字 片かな交じり 柱刻「沙石二下  
六」刊記「元和四年正月吉日」

20 徒然草 刊 大本二冊

古活字版 慶長頃刊 無辺 字高23・5センチ 半丁十一行二十  
字 平かな交じり

21 勅撰名所和歌抄出 刊 大本二冊

古活字版 元和頃刊 無辺 字高23・5センチ 半丁十行 細字  
双行 平かな交じり

22 謡抄 刊 大本十冊

古活字版 慶長頃刊 四周単辺 23・0×17・3センチ 半丁十

二行二十四五字 片かな交じり 柱刻「浮松 三」

23 女訓抄 刊 大本三冊

古活字版 寛永十六年刊 無辺 字高22・5センチ 半丁十三行

二十二字 平かな交じり 柱刻「中 二十四」 刊記「寛永十

六年二月吉辰」

24 武家諸礼集 刊 大本七冊

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高23・7センチ 半丁十二行二十

二字前後 平かな交じり 柱刻「れい 四」

25 匠材集 刊 横本四冊

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高11・3センチ 半丁十三行十二

字 平かな交じり 柱刻「第二 四十七」 見開一丁分を貼付

26 南浦文集 刊 大本三冊

古活字版 寛永二年刊 四周双辺 22・7×15・9センチ 半丁

十行二十字 柱刻「南浦文集下 二十四」 刊記「寛永乙丑仲

秋四条寺町校正刊行」

27 夢中間答集 刊 大本三冊

古活字版 元和寛永頃刊 四周双辺 22・8×17・6センチ 半

丁十二行二十七字前後 片かな交じり 柱刻「夢中二 廿四」

28 錦繡段抄 刊 大本五冊

古活字版 元和寛永頃刊 四周単辺 23・5×17・5センチ 半

丁十三行二十二字 片かな交じり 柱刻「錦繡卷二 二十四」

29 済民記 刊 横本三冊

古活字版 寛永頃刊 四周単辺 11・0×16・4センチ 半丁十

二行十二字 細字双行 片かな交じり

第二部 漢籍

30 文選 刊 大本三十一冊

古活字版 慶長十二年刊 四周双辺 25・7×16・8センチ 半

丁十行二十二字 有界 注文双行 柱刻判読不能 刊記「慶長丁

未沽洗上旬八葉板行畢」 いわゆる直江版

31 補註蒙求 刊 大本三冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 21・1×16・1センチ 半丁九

行十五字 柱刻「蒙求巻序 三」

32 白氏文集 刊 大本十冊

古活字版 元和四年刊 四周双辺 23・2×16・2センチ 半丁

九行十六字 有界 柱刻「白集一 十九」 刊記「戊午秋七月

丁亥朔那波道円書于洛中遠望台」とあり

33 春秋左氏伝 刊 大本十五冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 20・5×16・4センチ 半丁八

行十七字 有界 注文双行 柱刻「左氏五 八」

34 毛詩 刊 大本十冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 22・3×16・6センチ 半丁八

行十七字 有界 注文双行 柱刻「毛詩五 三」

35 毛詩 刊 大本十冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 21・3×16・3センチ 半丁八  
行十七字 有界 注文双行 柱刻「毛詩卷一 三」

36 漢書 刊 大本五十冊

古活字版 寛永五年刊 四周双辺 22・2×16・7センチ 半丁  
十行十七字 注文双行 柱刻「前漢志八上 十三」 刊記「寛  
永第五<sup>戊辰</sup>曆菊月廿一日 於洛陽本能寺前刊行焉」

37 後漢書 刊 大本二十五冊

古活字版 寛永頃刊 四周双辺 22・5×16・8センチ 半丁九  
行十七字 有界 注文双行 柱刻「後漢志二十 廿一」

38 十八史略 刊 大本七冊

古活字版 元和頃刊 四周单辺 22・5×15・9センチ ただし  
上部2センチを区切つて二字組みの見出しに用いる 半丁十二行  
二十二字 有界 注文双行 柱刻「史畧七 三」 内題「立齋  
先生標題解註音釈十八史略」

39 保赤全書 刊 大本四冊

古活字版 寛永元年梅寿刊 四周双辺 21・1×15・3センチ 半  
丁十一行二十一字 柱刻「保赤全書上 三」 刊記「寛永元年  
歲舍甲子季秋吉旦 梅寿刊行」

第三部 仏典

40 釈氏要覽 刊 大本三冊

古活字版 寛永頃刊 四周单辺 23・0×14・4センチ 半丁五  
行 有界 大中二種の活字を使用 大字は中字四字分の大きさ  
一行は中字双行二十字 柱刻「要覽下 三」

41 禪林類聚 刊 大本四冊

古活字高台寺版 慶長十八年刊 四周单辺 23・5×16・8セン  
チ 半丁十二行二十二字 注文双行 柱刻「禪林卷一 二」 刊  
記「於洛陽高台寺／參来之徒拔出之誤多々／于時慶長十八<sup>癸丑</sup>菊月  
吉辰」

42 三國仏法伝通縁起 刊 大本三冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 22・8×16・3センチ 半丁十  
行二十字 柱刻「三國伝起上 三」

43 三國仏法伝通縁起 刊 大本三冊

古活字版 元和頃刊 無辺 字高22・5センチ 半丁十一行二十  
字 注文双行 柱刻「伝起中 二」

44 仏祖歴代通載 刊 大本二十冊

古活字版 慶長十七年本國寺刊 四周单辺 21・9×15・4セン  
チ 半丁十行十九字 有界 別に眉上に小型活字二字組みの注あ  
り 柱刻「通載十六 二十四」 刊記「本國寺学校 玉潤日銳  
補爛脱耳／十住 從 実乗 進／法寿 珠 金林 慧／四僧集会  
異体同心鑲梓刊板流行天下／慶長十七<sup>壬午</sup>極月十九日」

45 古筆拾葉抄 刊 大本六冊

古活字高野版 寛永十二年刊 無辺 字高23・2センチ 半丁十



行二十字 行間に小型活字を用いて、送り仮名(片かな)・返り点

等組んだ、附訓植版 柱刻「古筆巻五 四」 刊記「右古筆

鈔於高野山往生院開印板／寛永十二年<sup>乙亥</sup>九月吉日 宣応開之」

46 註金師子章 刊 大本一冊

古活字版 元和寛永頃刊 四周单边 23・1×15・6センチ 半

丁十行二十字 柱刻「金師子章序 二」

47 禪儀外文集 刊 大本三冊

古活字版 寛永三年刊 四周双边 20・4×15・5センチ 半丁

六行十七字 有界 柱刻「禪儀外文中 二十四」 刊記「寛永

三<sup>丙寅</sup>卯月上旬於四條寺町校正刊行」

48 妙法蓮華經玄義 刊 大本十冊

古活字版 元和四年刊 无边 字高21・0センチ 半丁七行十七

字 柱刻「玄義卷二 六」 刊記「元和四<sup>戊午</sup>五月下旬四日／洛

下沙門 華林／沙門 実乗」 叡山版か

49 妙法蓮華經文句 刊 大本十冊

古活字版 元和頃刊 无边 字高21・0センチ 半丁七行十七字

柱刻「文句一 十五」 叡山版か

50 俱舍論頌疏愚聞記 刊 大本十三冊

古活字版 寛永頃刊 四周单边 23・6×16・5センチ 半丁十

一行十七八字 別に小型活字を用いて、送りがな・返り点等を字

間に組み込む

紙魚玉屑集

(略号——「紙」)

一帙 昭和十二年五月刊 紙魚玉屑頒布会(大阪市南区日本橋筋五丁目  
村井和本店方) 編

高麗版・万暦版各一葉、日本刊行の、国書・漢籍・仏書五十六葉、計五  
十八葉を収録。黒無地洋紙に、半丁乃至二丁の零葉を貼り、右肩に、書  
名と一・二行ほどの解題(活版)を付す。なお続編を期した模様である  
が、実現したか否かは不明。

底本——国文学研究資料館蔵本(リ3/14)

1 毛吹草 刊 横本五冊

明暦元年版 四周单边 10・8×17・7センチ 半丁十七行 初

版は無辺 「氷室守」に批判された句の頭に、「○」あり

2 沙石集 刊 大本五冊

古活字版 寛永頃刊 四周单边 23・1×17・0センチ 半丁十

二行二十八字前後 片かな交じり 柱刻「沙石四上 二」

3 訓蒙図彙 刊 大本十四冊

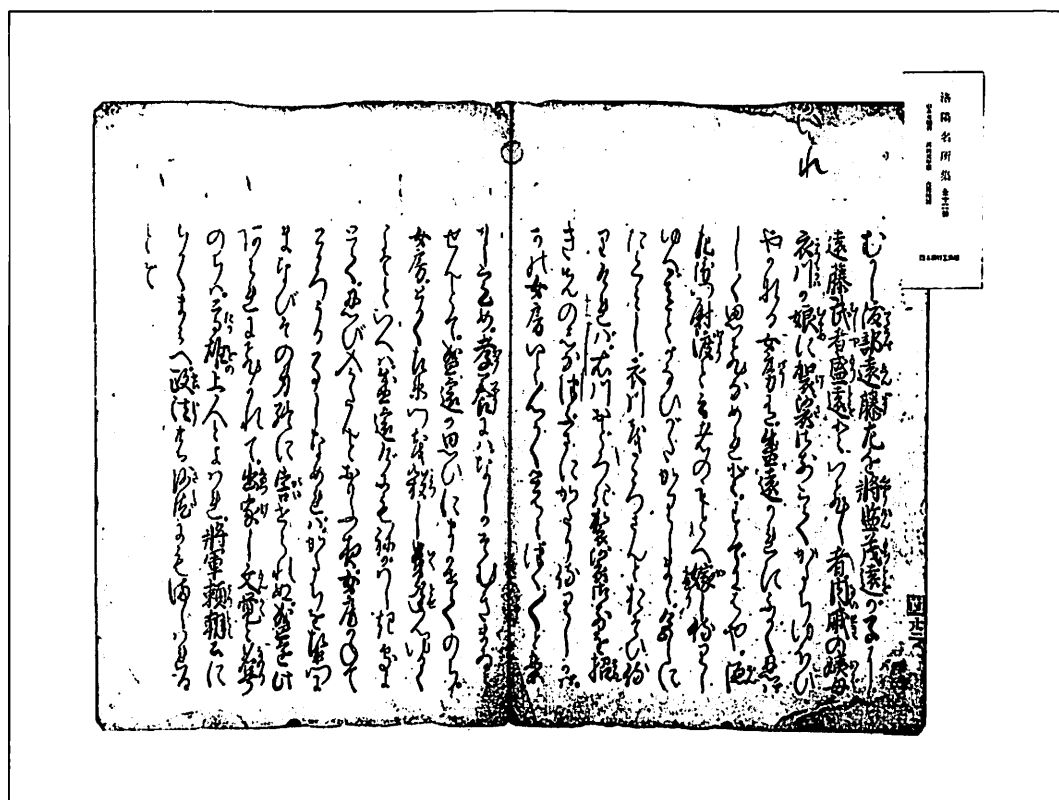
寛文六年版 四周单边 22・4×17・2センチ 半丁を上下左右

に二分し、それぞれに、挿絵・解を付す 柱刻「巻十二 六」

4 大般若経 刊 六百巻

高麗(戊戌年刊)版 字高22・2センチ 一行十四字 末尾に「大

般若第一百六十五 第十四張 寒 永才」とあり



5 可笑記 刊 中本五冊

万治二年版 四周单边 17・2×12・4センチ 半丁十二行 柱

刻「可笑記巻三」 不明

6 謡本 刊 半紙本百冊

古活字版 嵯峨本 慶長頃刊 无边 字高19・0センチ 半丁七

行十三字前後 薄肌色の雁皮紙に雲母で草木を刷った特製本 一字を削りとり、「勇」と墨にて補正した箇所あり 観世流百番のう

ち曲名は「八島」

7 新刊倭玉篇 刊 大本三冊

正保三年版 四周双边 22・0×15・3センチ 半丁九行 有界

柱刻「和玉 下 二十五」 刊記「正保丙戌仲秋上旬書林豊興

堂新梓刊」

8 因果物語 刊 大本三冊

〔刊年不明〕 四周单边 21・1×15・7センチ 半丁十二行 柱

刻「因果巻四 三」 平仮名本にて無刊記と推される

9 本朝桜陰比事 刊 大本五冊

元禄二年版 四周单边 20・0×16・0センチ 半丁十二行 柱

刻「櫻陰巻三 七」 初版初印本か

10 平家物語 刊 大本十二冊

寛文頃刊か 四周单边 22・2×16・4センチ 挿絵のみの丁ゆ

え行数不明 柱刻「平家巻十」 不明

11 山谷詩集 刊 大本四冊

古活字版 慶長元和頃刊 四周双辺 22・4×16・9センチ 半

丁九行十八字 柱刻「山谷卷十二 八」

12 女諸礼集 刊 大本六冊

万治三年版 四周双辺 20・5×15・3センチ 半丁十一行 丁

付はウラのノドに「三之巻 八」とあり

13 古今茶道全書 刊 大本五冊

元禄七年版 四周单辺 22・2×16・4センチ 各面図絵 柱刻

「茶五 卅七」

14 江戸名所記 刊 大本七冊

寛文二年版 四周单辺 20・9×16・3センチ 半丁十一行 柱

刻「江戸名所記巻三 十九」

15 法華秀句 刊 大本五冊

古活字版(叡山版か) 寛永頃刊 四周双辺 22・8×15・5セ

ンチ 半丁十行二十字 注文双行 柱刻「秀句上末 三十二」

16 本朝列女伝 刊 大本十冊

寛文八年勝村治太衛門版 四周双辺 20・8×15・7センチ 半

丁十行 柱刻「本朝列女伝巻五 九」

17 大ぬき 刊 小本二冊

元禄十二年版 四周单辺 13・1×9・7センチ 半丁九行 柱

刻「三味 水 卅四十」

18 四体千字文 刊 大本一冊

慶長九年版 半丁六行 柱判判読不能 22・3×17・0センチの

黒地に、千字文の本文を、四体で白抜きにより記す

19 洛陽名所集 刊 大本十二冊

万治二年版 無辺 字高22・1センチ 半丁十一行 丁付はオモ

テのノドに「十一(黒地白抜) 廿二」とあり 底本所収零葉

は、所謂「校正刷」本の零葉であり、所々に、削り残し、文字の

欠損等を朱で訂した箇所が見られる 赤本文庫本と比較するに、

その何れもが、朱のごとく補正されている

20 曾我物語 刊 大本十二冊

古活字版 慶長頃刊 無辺 字高23・3センチ 底本所収零葉は、

巻第三終丁半葉にて、六行分を刻すのみなるも、十二行本と推さ

れる 尾題「曾我物語巻第三」

21 宗祇諸国物語 刊 大本五冊

貞享二年版 四周单辺 18・9×14・2センチ 半丁十一行 柱

刻判読不能

22 本朝列仙伝 刊 半紙本四冊

貞享三年版 四周单辺 17・4×13・4センチ 半丁十行(但し

底本所収零葉は、巻第一終丁半葉にて、九行分のみ) 尾題「本

朝列仙傳巻之一 終」 柱刻「仙一 廿五」

23 謡鈔 刊 中本十冊

明暦二年版 四周单辺 16・6×12・4センチ 半丁九行 柱刻

「遊行柳 十」

24 大雑書 刊 大本三冊

寛永頃刊 無辺 字高19・8センチ 半丁十行 柱刻「下八」  
頗る古体

25 堪忍記 刊 大本八冊

寛文四年版 四周单边 22・9×16・6センチ 半丁十三行 柱  
刻「堪忍記卷六 九」

26 源氏小鏡 刊 大本三冊

明暦三年安田十兵衛版 無辺 字高20・8センチ 挿絵は本文と  
同じ面にもあり

27 古今韻会舉要 刊 大本十冊

五山版 応永五年刊 覆元刊本 左右双边 19・2×12・3セン  
チ 半丁八行 有界 注文双行 柱刻「韻九卷 十八」

28 (富松薩摩大夫正本) 刊 半紙本一冊

(刊年不明) 無辺 字高19・5センチ 半丁八行

29 京童 刊 大本六冊

明暦四年山森六兵衛版 四周单边 21・2×15・6センチ 半丁  
十一行 柱刻「二卷 十一」 刷りやや悪く、初版版木の一部  
流用された、部分覆刻版か(所収零葉の丁は、版木流用の丁にあ  
たる)

30 倭玉篇 刊 大本三冊

慶長十八年版 四周双边 19・8×17・0センチ 半丁七行 有  
界 柱刻「和玉篇卷中 廿四」

31 謡本 刊 半紙本二十冊

延宝二年版 無辺 字高17・6センチ 半丁七行 丁付はウラの  
ノドに「十八ノ五」「雲林院四」とある 観世流百番のうち曲名は  
「雲林院」 五番綴

32 高野大師行状図画 刊 大本十冊

万治寛文頃刊か 上下界線の天地23・5センチ 半丁九行 丁付  
は枠外に「五卷八」とある

33 簠簋 刊 大本二冊

古活字版 寛永五年刊か 四周双边 21・5×15・2センチ 半  
丁九行十八字 柱刻「簠簋二 十二」

34 太閤真蹟記 刊 大本

江戸後期木活字版か 四周单边 21・1×13・3センチ 半丁十  
一行二十三字 平かな交じり

35 維摩経略疏 刊 大本十冊

古活字叡山版 元和二年刊か 四周双边 22・8×17・3センチ  
半丁十一行二十字 柱刻「維摩疏六 十九」 尾題「維摩経略  
疏卷第十八」

36 江戸料理集 刊 半紙本六冊

延宝二年鈴木太兵衛版 四周单边 16・8×11・5センチ 半丁  
十行 柱刻「料理二 二十」

37 人倫訓蒙図彙 刊 半紙本七冊

元禄三年平楽寺版 四周单边 20・2×14・3センチ 半丁十三  
行 柱刻「人倫二 (示明) □」

38 孟子 刊 大本四冊

慶長頃刊 慶長中刊古活字版の覆刻か 四周双辺 20・6×14・7センチ 半丁七行 有界 注文双行 柱刻「孟子卷三 十九」所収零葉は、清原家が天皇に孟子御進講の際、使用したものの一部という（底本解題）が、いかが

39 炭俵 刊 半紙本二冊

享保頃刊 無辺 字高15・8センチ 半丁八行 柱刻「墨俵上十五」 「俳諧七部集」の一部

40 保元物語 刊 大本三冊

寛永三年版 無辺 字高20・8センチ（零葉は巻第一目録の半葉そのうちの最も長い行による） 半丁十二行 柱刻「保元巻一（不明）」 目録題「保元巻第一目録」

41 平治物語 刊 大本三冊

寛永三年版 無辺 字高21・5センチ 挿絵のみ四周単辺19・0×15・2センチ 半丁十二行 柱刻「平治巻二 三十四」 絵様すこぶる古雅

42 太平記 刊 大本二十冊

古活字版 慶長中刊（あるいは元和二年刊か） 四周双辺 22・2×16・7センチ 半丁十二行二十五から二十八字 片かな交じり 柱刻判読不能

43 貞享御成敗式目 刊 半紙本二冊

明版 万暦元年刊 四周単辺 21・1×12・8センチ 半丁十六

行 有界 柱刻「飲食門（不明）」 刊記「万暦新春種徳堂刊行」

44 諸国名所百人一首 刊 大本一冊

元禄頃刊 四周単辺 20・1×18・1センチ 半丁一図和歌一首 柱刻「名所百人一首 十一」

45 文正草子 刊 大本二冊

承応二年版 四周単辺 22・1×17・0センチ 半丁十二行 柱刻「ふんしやう下 二十三」

46 塵劫記 刊 大本三冊

寛永年間版 四周単辺 20・8×16・0センチ 挿絵（斗桶）のみの丁ゆえ行数不明 柱刻「中（不明）」 異版多し

47 四国遍礼霊場記 刊 大本七冊

元禄二年版 四周単辺 19・8×14・3センチ 挿絵（八幡宮図）のみの丁ゆえ行数不明 柱刻「霊場記巻七 七」

48 尚書 刊 大本四冊

古活字版 慶長頃刊 四周単辺 23・3×17・3センチ 半丁八行十七字 有界 注文双行 柱刻「尚書十三 二」

49 大日経疏 刊 大本十一冊

古活字版 元和頃刊か 無辺 字高22・2センチ 半丁十行十八字 柱刻判読不能

50 御成敗式目抄 刊 大本二冊

寛永二十一年版 四周双辺 21・2×15・2センチ 半丁七行 注

文双行 柱刻判読不能

51 日本永代蔵 刊 大本六冊

貞享五年版 四周单边 21・1×15・5センチ 半丁十三行 柱

刻「大福新長者教巻三 八」 底本解題によれば、本零葉の出所は、森田庄太郎単独版であつたやに解される

52 日本永代蔵 刊 半紙本六冊

〔刊年不明〕 四周单边 19・0×14・1センチ 半丁十五行 柱

刻判読不能 51の異版後刷本ならん

53 伽婢子 刊 半紙本十三冊

元禄十二年中川茂兵衛版 四周单边 19・0×13・8センチ 半

丁十二行 柱刻「伽子巻十二」  
不明 □

54 発句帖 刊 中本十冊

寛文六年版 四周单边 14・6×11・5センチ 半丁九行 所謂

「大発句帳」の普及版 柱刻「冬上 四十一」

55 立華訓蒙図彙 刊 半紙本六冊

元禄八年版 四周单边 18・2×13・7センチ 半丁二十行

56 御伽物語 刊 大本五冊

万治二年版 四周单边 19・9×16・1センチ 半丁十四行 柱

刻「御伽巻二 十二」

57 類証弁異全九集 刊 大本七冊

古活字版 寛永元年以前（元和頃か）刊 四周双辺 21・2×17・

0センチ 半丁十二行二十二字前後 注文双行 片かな交じり

柱刻「全九集三 三十三」

58 御書要文集 刊 大本二冊

古活字版 元和頃刊 無辺 字高22・7センチ 半丁十行二十字  
前後 片かな交じり 但し片仮名は小型活字にて手爾葉のみに使  
用される 柱刻「御書要文」下 三十二 日蓮宗坊刻本か

古活字版聚芳

(略号「聚」)

二卷(上下)二冊 昭和四十年十月刊 反町茂雄氏編 文書の会発行 限定六十部

第一部を国書(三十四葉)、第二部を漢籍・仏典(十六葉)とし、古活字版の零葉計五十葉を収録。上巻には、「古活字版の価値について」とする反町氏の稿があり、次いで、見開き毎に解題・零葉と続く。零葉は各半丁。

底本——国文学研究資料館蔵本(リ3/11)

第一部 国書

1 伊勢物語闕疑抄 刊 大本五冊

古活字版 寛永年中刊 無辺 字高21・9センチ 半丁十二行二十二字前後 平かな交じり

2 大和物語 刊 大本二冊

古活字版 元和頃刊 無辺 字高21・5センチ 半丁十二行二十一字前後 平かな交じり 若干の異種活字を交ぜる

3 源氏物語 刊 大本五十四冊

古活字版 慶長頃刊 無辺 字高22・2センチ 半丁十一行二十一字前後 平かな交じり 若干の異種活字(「御」・「月」等)を交ぜる いわゆる伝嵯峨本

4 源氏小鏡 刊 大本三冊

古活字版 元和寛永頃刊 無辺 字高22・0センチ 半丁十二行二十二字前後 平かな交じり 柱刻「中」  
[廿一] 稀に異種活字が交じるといふ

5 源氏小鏡 刊 大本三冊

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高22・2センチ 半丁十二行二十二字前後 平かな交じり 4とは全くの異版であり、三種の活字を混用する

6 保元物語 刊 大本三冊

古活字版 元和四年三月刊 四周単辺 21・5×16・4センチ 本来半丁十一行 所収零葉は巻第一の目録末尾にて、三行を刻すのみ 片かな交じり 大きき不同の二種の異種活字混用

7 平治物語 刊 大本三冊

古活字版 元和寛永頃刊 無辺 字高22・2センチ 半丁十二行二十二字前後 平かな交じり 三種の異種活字混用 また仮名に濁点のある活字が使用されている

8 吾妻鏡 刊 大本二十冊(二十五冊、五十一冊もあり)

古活字版 元和頃刊 四周双辺 21・6×17・9センチ 半丁十二行二十二字 注文双行 柱刻「東鑑」  
[二] 示明

9 平家物語 刊 大本十二冊

古活字版 元和頃仁衛門刊(解題) 無辺 字高23・1センチ 半丁十一行二十字前後 平かな交じり 濁点のあるかな活字使用 古活字版「平家」の一方流系統中、最初のものという

三 源 氏 物 語  
 源氏物語は、平安朝の貴族生活の断片を、作者の理想と現実の矛盾を、  
 政治的・社会的・経済的・文化的各方面から、詳しく描き出した、  
 日本文学の最高傑作である。その内容、形式、表現、すべてが、  
 日本文化の精華を、凝縮したものである。その研究は、日本文化の  
 理解に不可欠である。本書は、源氏物語の全貌を、簡明扼要に、  
 解説し、その魅力を、現代人に伝えることを目的としたものである。  
 本書は、源氏物語の全貌を、簡明扼要に、解説し、その魅力を、  
 現代人に伝えることを目的としたものである。本書は、源氏物語の  
 全貌を、簡明扼要に、解説し、その魅力を、現代人に伝えること  
 を目的としたものである。本書は、源氏物語の全貌を、簡明扼要に、  
 解説し、その魅力を、現代人に伝えることを目的としたものである。

源氏物語は、平安朝の貴族生活の断片を、作者の理想と現実の矛盾を、  
 政治的・社会的・経済的・文化的各方面から、詳しく描き出した、  
 日本文学の最高傑作である。その内容、形式、表現、すべてが、  
 日本文化の精華を、凝縮したものである。その研究は、日本文化の  
 理解に不可欠である。本書は、源氏物語の全貌を、簡明扼要に、  
 解説し、その魅力を、現代人に伝えることを目的としたものである。  
 本書は、源氏物語の全貌を、簡明扼要に、解説し、その魅力を、  
 現代人に伝えることを目的としたものである。本書は、源氏物語の  
 全貌を、簡明扼要に、解説し、その魅力を、現代人に伝えること  
 を目的としたものである。本書は、源氏物語の全貌を、簡明扼要に、  
 解説し、その魅力を、現代人に伝えることを目的としたものである。

10 平家物語 刊 大本十二冊

古活字版 寛永五年九月刊 無辺 字高21・9センチ 半丁十二

行二十一 字前後 平かな交じり 柱刻「平家巻八 三十一」

三、四の異種活字混用 濁点のあるかな活字使用

11 平家物語 刊 大本十二冊

古活字版 元和寛永頃刊 無辺 字高23・8センチ 半丁十二行

二十 字前後 平かな交じり 柱刻「二 七」 二種の活字混

用 八坂本系統のものという

12 平家物語 刊 大本十二冊

古活字版 寛永頃刊 四周双辺 22・5×16・6センチ 半丁十

二行二十二 字前後 片かな交じり 柱刻「平家巻四 二」 二

種の活字混用 片かなの附訓活字、タテ点、句読点使用

13 源平盛衰記 刊 大本二十五冊

古活字版 元和寛永頃刊 四周单辺 22・7×16・6センチ 半

丁十二行二十三 字前後 片かな交じり 柱刻「盛衰記巻卅七

（不明）

14 源平盛衰記 刊 大本二十五冊

古活字版 寛永頃刊 四周单辺 22・8×16・6センチ 半丁十

二行二十三 字前後 片かな交じり 柱刻「盛衰記巻卅三 □二」

二種の活字混用 片かなの附訓活字、タテ点、句読点使用

15 沙石集 刊 大本十冊

古活字要法寺版 慶長頃刊 無辺 字高22・1センチ 半丁十行



二十一から二十五字前後 片かな交じり 柱刻「沙石集 一下  
十二」 大小二種の活字混用

16 沙石集 刊 大本十冊

古活字版 元和二年刊 四周双边 22・3×17・3センチ 半丁

十二行二十六字前後 片かな交じり 柱刻「沙石集 三上」  
〔不明〕

17 徒然草 刊 大本二冊

古活字版 嵯峨本 慶長頃刊 無辺 字高22・0センチ 半丁十

行十七字前後 平かな交じり 料紙の上に雲母刷で牡丹が描かれ

た特製本 漢字の左傍に、墨でルビが附される

18 謡本 刊 半紙本百冊

古活字版 嵯峨本 慶長頃刊 無辺 字高18・7センチ(但し、

所収零葉は最終丁の末尾一行のみのものであり、不完か) 観世

流百番のうち曲名は「通盛」 薄肌色の料紙(雁皮紙を二枚貼り

合わせたもの)に、雲母で草木を刷り出した特製本

19 職原私抄 刊 大本二冊

古活字版 寛永四年刊 四周双边 22・1×15・3センチ 半丁

十二行二十二字前後 片かな交じり 柱刻「職原巻下」  
〔不明〕

20 庭訓抄 刊 大本二冊

古活字版 元和寛永頃刊 四周双边 21・3×16・6センチ 半

丁十二行二十四字前後 片かな交じり 柱刻「庭訓抄下 十九」

若干の異種活字混用

21 太平記 刊 大本四十冊

古活字版 慶長八年刊 四周单边 22・7×16・9センチ 半丁

十二行二十字から二十五字 片かな交じり 柱刻「太平記巻十

十四」 若干の異種活字混用

22 太平記 刊 大本四十一冊

古活字版 慶長十年刊 四周双边 22・8×16・6センチ 半丁

十二行二十一字前後 片かな交じり 柱刻「太平記廿二 十」

三種の活字混用 要法寺版か

23 太平記 刊 大本四十一冊

古活字版 慶長十二年刊 四周双边 22・8×17・5センチ 半

丁十二行二十三字前後 有界 片かな交じり 柱刻「太平記巻三

〔九〕 古活字版「太平記」中、界線のあるのは本版のみという

24 太平記 刊 大本四十冊

古活字版 慶長十四年刊 無辺 字高23・3センチ 半丁十行二

十字前後 平かな交じり「詮」・「職」・「資」のごとく、一部平か

なの附訓活字を使用 ウラのノドに「三十六之十八」

25 太平記 刊 大本四十一冊

古活字版 慶長十五年春枝刊 四周单边 23・3×17・2センチ

半丁十二行二十五字前後 片かな交じり 柱刻「劔巻 十一」

二種の活字混用

26 太平記 刊 大本四十一冊

古活字版 元和二年刊 四周单边 22・6×17・3センチ 半丁

十二行二十五字前後 片かな交じり 柱刻「太平記廿九 卅八」

数種の活字混用

27 太平記 刊 大本四十一冊

古活字版 寛永元年刊 無辺 字高24・0センチ 半丁十一行二十  
十字から二十二字 平かな交じり 小型活字にてかなりの漢字に  
平仮名ルビを付す オモチのノド中央に丁付「三十一 廿二」

28 太平記音義 刊 大本二冊

古活字版 元和寛永頃刊か 四周単辺 21・4×17・3センチ 半  
丁十二行二十三字前後 片かな交じり 柱刻「太平音下」  
〔不明〕

29 曾我物語 刊 大本十二冊

古活字版 慶長元和頃刊 無辺 字高22・3センチ 半丁十一行  
二十字前後 平かな交じり 墨にて濁点あるも後人の加筆か

30 曾我物語 刊 大本十二冊

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高23・6センチ 半丁十二行二十  
八字前後 平かな交じり

31 義経記 刊 大本八冊

古活字版 寛永頃刊 無辺 字高23・5センチ 半丁十二行二十  
八字前後 平かな交じり 平仮名の連続活字使用ほか、版式その  
ものが30と酷似する

32 拾芥抄 刊 大本六冊

古活字版 慶長頃刊 四周単辺 21・4×16・5センチ 半丁十  
一行十九字 柱刻「拾芥 上本」  
〔不明〕 やや大きめの異種活  
字混用

33 公事根源 刊 中本三冊

古活字版 元和寛永頃刊 無辺 字高17・4センチ 半丁九行十  
八字前後 平かな交じり 「荷前」のごとく、一部小型片かな活  
字にて、別にルビを付す 三種の活字混用

34 類字名所和歌集 刊 大本七冊

古活字版 元和年間刊 無辺 字高24・3センチ 半丁十一行二  
十七字前後 細字双行 平かな交じり

第二部 漢籍・仏典

35 周易 刊 大本三冊

古活字伏見版 慶長十年刊 四周双辺 21・4×15・4センチ 半  
丁八行十七字 有界 注文双行 柱刻「周易卷五 二十九」本  
文・注文ともに、「貞」字最終画を欠くという

36 毛詩 刊 大本二十冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 21・2×16・6センチ 半丁八  
行十七字 柱刻「毛詩卷五 九」 若干の異種活字混用

37 春秋経伝集解 刊 大本三十冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 20・1×16・2センチ 半丁八  
行十七字 有界 注文双行 柱刻「左氏六 八」

38 史記 刊 大本五十一冊

古活字版 慶長頃刊 四周双辺 22・9×17・1センチ 半丁八  
行十七字 有界 注文双行 柱刻「史記 傳五十八 十七」い

わゆる伝嵯峨本

39 史記 刊 大本五十一冊

古活字版 慶長元和頃刊 四周双边 21・6×16・9センチ 半

丁八行十七字 注文双行 柱刻「史記紀一 二十七」 二種の

活字混用

40 後漢書 刊 大本八十冊

古活字版 寛永年間刊 四周双边 20・0×16・9センチ 半丁

九行十七字 有界 注文双行 柱刻「後漢記四 <sup>(不明)</sup>」 三種の

活字混用 「本能寺前刊行」か

41 十八史略 刊 大本七冊

古活字版 元和年間刊 四周单边 21・9×15・5センチ 半丁

十二行二十二字 有界 注文双行 眉欄(二字)あり 柱刻「史

畧三 三十一」 若干の異種活字混用

42 白氏文集 刊 大本七十四冊

古活字版 元和四年(那波道円校)刊 四周双边 22・8×16・

4センチ 半丁九行十六字 有界 柱刻「白集六 八」 同

じく那波道円校刊の「倭名類聚抄」と、同活字使用(解題) な

お底本解題に元和六年刊とあるは誤り

43 東坡先生詩 刊 大本二十六冊

古活字版 慶長頃刊 四周双边 21・6×17・0センチ 半丁九

行十五字 有界 注文双行 柱刻「坡詩一 十九」 朝鮮の覆

宋刊本をさらに覆刻したものという

44 貞観政要 刊 大本十冊

古活字版 元和九年刊 四周双边 22・0×15・5センチ 半丁

十七行 有界 注文双行(ただし底本所収零葉は注文のみの箇所)

柱刻「貞観二 三十」 伏見版の模刻

45 群書治要 刊 大本四十七冊

古活字駿河版(銅活字版) 元和二年刊 四周双边 20・9×15・

4センチ 半丁八行十七字 有界 注文双行 柱刻「羣書治要六

四」 新旧二種の銅活字混用

46 補註蒙求 刊 大本六冊

古活字版 慶長頃刊 四周双边 22・1×17・6センチ 半丁九

行十五字 柱刻「蒙求 <sup>(不明)</sup>之 本 二十八」

47 <sup>増補</sup>金通額府群玉 刊 大本三十八冊

古活字版 寛永二年刊 四周双边 22・1×16・7センチ 半丁

十行十八字 有界 注文双行 柱刻「群玉十二 五」 版式も

整均で上々の刷り

48 註解傷寒論 刊 大本二冊

古活字版 元和寛永頃刊 四周双边 21・3×15・2センチ 半

丁十一行十九字 注文双行 柱刻判読不能 二・三種の活字混用

49 保赤全書 刊 大本三冊

古活字版 寛永元年刊 梅寿刊行本の一つ 四周双边 20・5×

15・2センチ 半丁十一行二十一字 注文双行 柱刻判読不能

50 禅林類聚 刊 大本四冊

古活字版（高台寺版） 慶長十八年刊 四周单边 22・8×16・

6センチ 半丁十二行二十二字 柱刻「禪林一 四十二」 三種

ほどの活字混用 版面はなだ不整

## 浮世草子聚芳

（略号——「浮」）

二（上下）巻二冊 昭和四十六年十月 文書の会刊 反町茂雄編 限定七十部

西鶴本と八文字屋本を中心に浮世草子五十種を収録。偶数ページに零葉を貼り、対面奇数ページに活字印刷にて解説を付す。零葉は各半丁、ただし、11「小夜風物語」、14「風流曲三味線」は一丁表裏を二折にして右端のみ糊付する。21「傾城禁短氣」は一丁表裏を上下に開いて貼る。「古活字版聚芳」に続く零葉集。各零葉の解説には、その完本の市価推定値を付す。

底本——国文学研究資料館（リ3／12）

1 好色一代男 刊 大本八冊

天和二年版 大坂荒砥屋孫兵衛可心刊 四周单边 20・2×15・7センチ 半丁十一行 柱刻判読不能

2 男色大鑑 刊 大本十冊

貞享四年版 大坂深江屋太郎兵衛・京都山崎屋市兵衛刊 四周单边 19・7×16・2センチ 半丁十二行 柱刻「大七」 □□

3 武道伝来記 刊 大本八冊

貞享四年版 江戸万屋清兵衛・大坂岡田三郎右衛門刊 四周单边 19・8×15・3センチ 半丁十三行 柱刻「武道 巻六 十二」

4 御伽比丘尼 刊 大本五冊

貞享四年版 四周単辺 19・0×13・5センチ 半丁十一行 柱  
刻判読不能

5 武家義理物語 刊 大本六冊

貞享五年版 京都山岡市兵衛・江戸万屋清兵衛・大坂安井加兵衛  
刊 四周単辺 19・1×14・4センチ 半丁十一行 柱刻「武家

義理物語 卷二 □□」

6 日本永代蔵 刊 大本六冊

貞享五年版 京都金屋長兵衛・大坂森田庄太郎刊 四周単辺  
21・0×15・6センチ 半丁十三行 柱刻判読不能

7 新可笑記 刊 半紙本五冊

元禄元年版 江戸万屋清兵衛・大坂岡田三郎右衛門刊 四周単辺  
18・0×13・5センチ 半丁十一行 柱刻「新笑二 十四」

8 本朝桜陰比事 刊 大本五冊

元禄二年版 江戸万屋清兵衛・大坂鴈金屋庄左衛門刊 四周単辺  
20・0×15・5センチ 挿絵の丁ゆえ行数不明 柱刻「桜陰巻五

四」

9 世間胸算用 刊 大本五冊

元禄五年版 京都上村平左衛門・江戸万屋清兵衛・大坂伊丹屋太  
郎右衛門刊 四周単辺 18・6×13・7センチ 半丁十行 柱刻

判読不能

10 西鶴織留 刊 大本六冊

元禄七年版 江戸万屋清兵衛・大坂鴈金屋庄兵衛・京都上村平左

衛門刊 四周単辺 20・4×15・5センチ 半丁十二行 柱刻「世  
の人心三 十五」

11 小夜風物語 刊 半紙本十冊

元禄十一年版 大坂村上清三郎等刊 四周単辺 19・0×13・7  
センチ 半丁十一行 柱刻「小夜風巻第八 □□」

12 東海道敵討 刊 大本六冊

元禄十五年版 京都河勝五郎左衛門・江戸升屋五郎右衛門刊 四  
周単辺 20・6×15・1センチ 半丁十行 柱刻「東海道敵討巻  
五 十四」

13 けいせい色三味線 刊 横本五冊

元禄十四年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周単辺 10・8×  
17・0センチ 半丁十五行 柱刻「□之巻 色三味線 五十四」

14 風流曲三味線 刊 横本六冊

宝永三年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周単辺 10・8×16・  
9センチ 半丁十五行 柱刻「二之巻 曲三味線 廿四」

15 宝永忠信物語 刊 半紙本五冊

宝永二年版 江戸芝神前山田屋三四郎刊 四周単辺 18・8×

14・1センチ 半丁十行 柱刻「忠信物語五 四」

16 伊達髪五人男 刊 横本五冊

宝永三年版 京都菊屋七郎兵衛刊 四周単辺 10・2×16・4セ  
ンチ 半丁十五行 柱刻判読不能

17 傾城播磨石 刊 横本六冊



正徳三年版 京都江島屋市郎左衛門刊 四周単辺 20・2×16・

0センチ 半丁十一行 柱刻判読不能

25 通俗諸分床軍談 刊 大本五冊

正徳三年版 京都谷村清兵衛・江島屋市郎左衛門刊 四周単辺

20・9×15・9センチ 半丁十一行 柱刻「諸分一之巻」 □□□

26 女男色遊 刊 横本五冊

正徳四年版 京都谷村清兵衛刊 四周単辺 10・8×16・7センチ

チ 半丁十五行 柱刻「一之巻」 二十五

27 義経風流鑑 刊 横本五冊

正徳五年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周単辺 11・2×17・

8センチ 半丁十四行 柱刻判読不能

28 今源氏空船 刊 大本五冊

正徳六年版 京都菊屋長兵衛刊 四周単辺 19・4×14・6センチ

チ 半丁十一行 柱刻「今源氏三 六」

29 諸国武道氣質 刊 大本五冊

享保二年版 京都菊屋長兵衛刊 四周単辺 19・4×14・6センチ

チ 挿絵の丁ゆえ行数不明 柱刻判読不能

30 野傾咲分色存 刊 横本五冊

享保三年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周単辺 10・8×16・

6センチ 半丁十四行 柱刻「色存二巻」 十四

31 傾城新色三味線 刊 横本六冊

享保三年版 四周単辺 10・2×16・1センチ 半丁十八行 柱

刻判読不能

32 色縮緬百人後家 刊 横本五冊

享保三年版 京都いせや左兵衛刊 四周単辺 13・2×19・3センチ

半丁十四行

33 けいせい電照君 刊 横本五冊

享保三年京都八文字屋八左衛門版、または、寛政頃刊大坂綿屋喜

兵衛版 本集収録のものがどちらのものかは不明 四周単辺

10・9×16・8センチ 半丁十二行 柱刻「一之巻」 太夫 四

34 傾城折居鶴 刊 横本五冊

享保二年版 京都中島又兵衛刊 四周単辺 11・0×16・7センチ

チ 柱刻「二之巻」 おりすへ 四

35 けいせい手管三味線 刊 横本五冊

享保十一年版 京都中島又兵衛刊 四周単辺 10・9×16・6センチ

チ 半丁十八行 柱刻「一之巻」 □□□

36 契情お国歌舞伎 刊 大本五冊

享保十五年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周単辺 20・6×

15・9センチ 挿絵の丁ゆえ行数不明 柱刻判読不能

37 富士浅間裾野桜 刊 半紙本五冊

享保十五年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周単辺 20・5×

16・2センチ 半丁十二行 柱刻「一之巻」 富士 □□□

38 けいせい哥三味線 刊 横本五冊

享保十七年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周単辺 10・9×

17・0センチ 半丁十四行 柱刻判読不能

39 風流友三味線 刊 横本五冊

享保十八年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周单边 11・0×

16・8センチ 半丁十四行 柱刻判読不能

40 風流連理 懋 刊 横本三冊

享保二十年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周双边 12・9×

19・5センチ 半丁十四行

41 諸わけ名女烟草 刊 横本五冊

元文元年版 大坂河内屋茂兵衛・同せと物や伝兵衛刊 四周单边

10・7×16・9センチ 半丁十四行 柱刻「名女二 十四」

42 御伽名題紙衣 刊 大本六冊

元文三年版 京都菊屋七郎兵衛刊 四周单边 20・3×15・8セ

ンチ 半丁十二行 柱刻判読不能

43 武遊双綴巴 刊 半紙本五冊

元文四年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周单边 20・4×16・

4センチ 柱刻「一之巻 武遊 八」

44 小野篁 恋釣船 刊 半紙本五冊

寛延二年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周单边 19・7×15・

7センチ 半丁十二行 柱刻「三之巻 篁 六」

45 風流繁花形 大本 五冊

宝暦四年版 大坂吹田屋太四郎刊 四周单边 19・7×15・5セ

ンチ 半丁十一行 柱刻「女 二之巻 十」

46 菜花金夢合 刊 半紙本五冊

宝暦五年版 京都八文字屋八左衛門刊 四周单边 19・2×14・

6センチ 半丁十二行 柱刻「金 巻之二 □□」

47 当世両面鏡 刊 大本五冊

宝暦十三年版 京都めと木や伝兵衛刊 四周单边 19・0×14・

2センチ 半丁十一行 柱刻「當世両面鏡 巻之五 九」

48 世間侍婢氣質 刊 半紙本五冊

明和八年版 江戸前川六左衛門・大坂西田屋利兵衛・京都田中屋

半兵衛刊 四周单边 19・6×14・9センチ 半丁十二行 柱刻

判読不能

49 世間 姑氣質 刊 半紙本五冊

明和九年版 京都菱屋孫兵衛・同本屋伊兵衛刊 四周单边 19・

3×15・5センチ 半丁十行 柱刻「女形氣 巻之二 □□」

50 風俗世間用心記 刊 横本五冊

明和十年版 京都菊屋七郎兵衛刊 四周单边 10・4×16・4セ

ンチ 半丁十五行 柱刻判読不能



古版本聚芳

(略号——「版」)

二(上下) 卷二冊 昭和五十五年一月 文書の会刊 反町茂雄編 限定五十部

元和頃までの古版本五十種を収録。ただし、古活字版はすでに『古活字版聚芳』に収録したゆえ、本零葉集には収録していない。序、凡例、目次に続き十九ページにわたる序説「古版本とその歴史的背景」が付され、以下偶数ページに零葉を貼り、対面奇数ページに活字印刷にてその解説を付す。目字では「第一 平安朝・鎌倉時代」(上巻 1~20)、「第二 南北朝・足利時代」(下巻 21~41)、「第三 近世初期・徳川時代」(下巻 42~50)となっている。『浮世草子聚芳』に続く零葉集。各零葉の解説には、その完本の市価推定値を付す。

底本——国文学研究資料館(リ3/10)

1 成唯識論述記 刊 卷子本二十卷

春日版 平安朝末から鎌倉初期刊 字高24センチ 一紙二十七八

行二十一

2 成唯識論了義燈 刊 卷子本

春日版 鎌倉初期刊 字高23・0から23・5センチ 一紙二十四

行前後十七

3 成唯識論演秘 刊 卷子本七卷

春日版 鎌倉初期刊 字高22・5センチ 一行二十字

4 成唯識論了義燈 刊 卷子本

春日版 鎌倉中期刊 字高23・0センチ 一行二十一字 料紙薄い雲母引き

5 瑜伽師地論 刊 卷子本百卷

春日版 建暦三年沙門弘睿刊 字高20・5センチ 一行十七字 刊記「沙門弘睿依專心上人命 勸都鄙貴賤類 奉彫瑜伽論一部模于時建暦癸酉終功矣 願以作模所生福 令法久住利有情 主伴勸進結緣衆 共生知足終成仏」 白紙本

6 瑜伽師地論 刊 百卷

春日版 建暦三年沙門弘睿刊 字高20・3センチ 一行十七字

黄紙本

7 成唯識論 刊 十卷

春日版 承久三年弘睿刊 鎌倉末期頃刷 字高20・3センチ 一行十七字 (本集所収の切二行目は二十字) 刊記「沙門弘睿蒙

満寺衆命 造唯識論模矣 承久辛巳初秋下旬彫刻功畢 願繼応理

宗法命 久増春日靈威光 遠生有情類慈解 皆共必得龍華益」

8 成唯識論述記 刊

春日版 鎌倉初中期刊 字高23・8センチ 一行二十一字

9 大般若波羅蜜多經 刊

嘉禄三年版 弘安八年刷 字高20・7センチ 一行十七字

10 釈摩訶衍論 刊 半紙本十卷

高野版 建長八年刊 南北朝頃刷 字高20・6センチ 一面六行

時彼識還疑名不離身如隔日癡難非現有說癡不離身云識應類益論是則不應至如彼周故定曰下方始有即說定中心行機轉識定中无出定方始有何為說不離應說定中識非有何乃說識不離於身識与想等生機周故以法想等无大也故比量可知論壽煇諸想至便成大過定曰壽二難壽煇二一及与諸根應亦如識所以者何說彼定中无離壽而實定无善不无亦說定中不離識而實定中識是有煇及諸根

鎌倉中期刊 字高22・2センチ 一行十七字 料紙は鳥の子雲母  
薄引

16 大般若波羅蜜多經 刊

鎌倉中期刊 字高20・4センチ 一行十七字

17 大方広華嚴經 刊 八十卷

鎌倉中期頃刊 天地墨界20・8センチ 一紙二十六行十七字

料紙は鳥の子紙

18 梵網經古迹記 刊 二帖

西大寺版 正安四年刊 字高22・0センチ 一紙二十六行前後二

十一字 料紙は厚手純白の鳥の子紙

19 華嚴經隨疏演義抄 刊 四十卷

東大寺版 正慶元年刊 天地墨界23・0センチ 一行二十字 高

麗版覆刻 折帖装 刊記「右為令法久住 利益衆生 所令開板也

正慶元年<sup>壬申</sup>五月廿日 庸医法橋理覺」(卷第二下末)

20 大般若波羅蜜多經 刊

元弘四年版 字高19・8センチ 一行十七字 刊記「元弘四年正

月十五日以自力刊当卷矣 為国土泰平自他成仏也 勸進沙門素

慶」(卷第一百二十六末)

21 成唯識論 刊 十卷

春日版 南北朝頃刊 室町初期刷 字高20・5センチ 一行十七

字

22 大方広華嚴經 刊 六十卷

武藏国普濟寺版 貞治応安中刊 字高23・3センチ 一紙二十四  
五行 一行十七字

23 地藏本願經 刊 三冊

応安六年版 天地墨界24・1センチ 一紙二十一行十六七字 折

帖装

24 大般若波羅蜜多經 刊 六百卷

南北朝時代刊 応安七年施入本 字高20・4センチ 一紙二十三

行前後十七字 折帖装

25 大般若波羅蜜多經 刊 六百卷

永徳三年頃刊 有界(銀界) 天地20・7センチ 一面五行十七

字 折帖装

26 妙法蓮華經 刊 八卷

南北朝時代刊 有界(金界) 天地19・3センチ 一紙二十八行

前後十七字

27 大般若波羅蜜多經 刊 六百卷

足利初期頃刊 永正八年以前刷 字高20・6センチ 一紙二十一

二行十七字

28 大般若波羅蜜多經 刊 六百卷

足利初期頃刊 字高19・6センチ 一紙二十三行十七字

29 妙法蓮華經 刊 八卷

足利初期頃刊 字高22・5センチ 一面四行十七字 折帖装

30 歷代帝王紹運図 刊 半紙本一冊

五山版 足利初期刊 同末期頃刷 四周双辺 18・5×12・3センチ 半丁七行十一字 有界 柱刻判読不能

31 大般若波羅蜜多經 刊 六百卷

応永十七年頃刷 字高20・5センチ 一紙二十二行十七字 刊

記「右志趣者 為七世四恩并一切衆生／皆成仏道 殊者天下泰平

国土豊／饒 人民豊樂乃至法界平等利益矣／于時応永十七年庚寅

卯月三日／願主沙門性恵<sup>敬</sup>白」(巻第二百五十五巻末)

32 蘇悉地羯羅經 刊 三冊

根来版 応永二十五年刊 字高20・8センチ 一紙二十二行十

七字 刊記「応永廿五年二月九日 大伝法院惠淳」(上巻末 中巻

は同年五月三日、下巻八月廿三日)

33 大方等大集經 刊 三十巻

応永頃刊 天地墨界20・9センチ 一紙二十五行前後十七字

34 金剛頂瑜伽經 刊 三巻

東寺版 文安元年刊 字高21・0センチ 一紙十九あるいは二十

行十七字 刊記「文安甲子極月 日開板 金剛仏子賞増」(巻第二

末)

35 大般若波羅蜜多經 刊 六百巻

文安三年頃版 天地(緑色金銅界線) 20・9センチ 一紙二十二

行前後十七字 豊前国貫山大権現施入

36 大方広仏華嚴經 刊 八十巻

春日版 足利中期刊 字高21・4センチ 一面六行十七字 折帖

装

37 妙法蓮華經 刊 八巻

足利中期頃刊 字高21・3センチ 一行十七字 明応七年の寄進

記あり

38 妙法蓮華經 刊 八巻

足利中末期頃刊 天地(緑色金銅界線) 21・3センチ 一紙二十

五行前後十六字

39 聚分韻略 刊 大本一冊

五山版 永正元年 東山春雲軒刊 四周単辺 20・0×15・0セ

ンチ 半丁十行 有界 刊記「聚分韻略啓童蒙之書也 然平上去

入難卒分之 或列四声以備一目 蓋俾人易解也 因鑱于板 置諸

東山春雲軒 伏冀不即文字不離文字 以極禪河教海／永正元年歳

舍甲子八月初吉」 柱刻判読不能

40 悉曇字紀 刊 一冊

高野版 足利中期頃刊 足利末期刷 字高19・5センチ 両面刷

一面七行十三字 粘葉装

41 般若理趣經 刊 一冊

天正慶長頃刊 字高18・7センチ 一面四行十七字 折帖装 当

所大権現奉納經

42 四体千字文 刊 大本一冊

慶長十一年版 白文(陰刻) その寸法22・4×17・4センチ 半

丁六行 巻末奥題の下に刊記「慶長丙午歳 金宣開板」 柱刻判

読不能

43 倭玉篇 刊 大本三冊

慶長十八年版 四周双辺 20・5×17・0センチ 半丁七行 有

界 刊記「慶長癸丑仲冬日 開板之」(下巻末) 柱刻判読不能

44 黄石公素書 刊 大本一冊

慶長二十年頃版 四周双辺 16・0×13・0センチ 半丁八行 柱

刻判読不能 巻末跋文の後に「慶長二十年乙卯閏六月下澣 大龍

老夫玄昌書」 特製本

45 節用集<sup>易林本</sup> 刊 大本二冊

慶長中刊 四周单辺 22・3×17・8センチ 半丁七行 柱刻「節

用集 二十三」 刊記「皆慶長二丁<sup>西</sup>易林誌」

46 医方大成論 刊 大本一冊

元和二年版 四周双辺 17・8×15・4センチ 半丁十行 柱刻

「医方大成論 十」 刊記「元和二<sup>丙</sup>年仲春良日 二条鶴屋町

関吉右衛門<sup>開板</sup>」

47 下学集 刊 大本二冊

元和三年版 四周单辺 23・4×17・2センチ 半丁七行 柱刻

「下学集 十三」 刊記「元和三年丁巳孟夏吉日梓焉 杉田良

庵玄与開板」

48 平家物語 刊 大本十二冊

元和九年版 四周双辺 22・1×16・8センチ 半丁十二行 刊

記「此平家物語 一方檢校衆以数人之吟味 改字証加点及句読

元和七孟夏下旬令開板畢 / 或人曰 庶幾記其姓名<sup>云々</sup> 故今準

之而已 / 于時元和九初秋吉日 洛陽三条東洞院諏訪町 杉田良庵

玄与<sup>与玄</sup>

49 つれぐ草 刊 大本二冊

元和中刊 無辺 字高21・4センチ 半丁十行

50 伊勢物語 刊 大本二冊

元和寛永中刊 無辺 字高21・3センチ 半丁八行 慶長中刊の

嵯峨本伊勢物語の模刻版

## あとがき

国文学研究資料館には、国文学以外に情報学すなわちコンピューター関係の教官がいる。かつて調査カード（国文学文献資料調査カード）のデーターベース化について話合っていたとき、ある若手の研究者がなにげなく言った言葉に、妙に関心したことがある。一枚の写真の持つ情報量は、解説の何百語にも相当する——というもの。彼が語らんとしたのは、コンピューターによる情報処理など、しよせんは限界のあるものだという、シニカルな意味であつたのだが、調査カードとマイクロ・フィルムという、わが身に引きつけたとらえかたをして、しばらく考え込んでしまった。

一般に書誌解題というものは、調査カードも同じことが言えるかもしれないが、凡百の諸本諸版のうちにあつて、当該の一本が、いかなる独自性を持っているか、を語ることであり、それは、表紙がどんな風であり、寸法がこれこれであつてと始まつて、読む者の眼前に、具体的イメージの現出するように、言葉を費すことであらう。そう考えれば、一葉の写真に匹敵することは、むずかしい。解題に図版が添えられたり、世上に『旧刊景譜』また『近世文芸名著標本集』のたぐいの存在することを、ゆえなしとしない。

しかし写真や電子複写の技術をもつてしても、どれだけ現物に迫れるかには、問題がある。たとえば紙質を再現できないし、版本の覆刻（か

ぶせばり）に関して近時やかましい、匡郭の数ミリの違いなども、はたして、どれだけ真に迫れよう（因みに手近かの複写機でへものさし）をコピーしてみたところ、二〇センチで一ミリ、すなわち〇・五パーセントの誤差があつた）。

覆刻についてさらに言えば、写真やコピーに基いて別版であることを言うのは、それほど困難ではない。同版と断定するのが、むずかしい。書誌解題（調査カード）は写真に及ばず、写真は現物に及ばない——ミスター・コンピューターとの対話に発した私の思考は、まことにあたりまえの結論に到着したのであつた。

## \*

だいぶ以前といつても、都立中央図書館が有栖川公園に移ってから後のことだが、特別文庫室でN氏と出会つたことがある。その日N氏は地図用の大机に大型本を揚げ、立つたままでページを繰っていた。脇からのぞき込んでみると、版本の零葉の貼り込み帖であつた。その時は、加賀文庫にはこんな種類の本もあつたのか、という程度の興味しか持たなかつたので、その貼り込み帖が『蛾眉公子』であつたか『玉屑集』であつたか、残念ながら記憶にない。

N氏の書癖はつとに聞き及んでいたが、このたぐいにまでもと、あらためて驚いた次第であつた。

その後、縁あつて私は資料館に俸職することになったが、たまたま書庫に入つて大型本の別置してあるコーナーで、この種のものの一つを手

にすることとなった。それは『歴代古紙聚芳』（昭57 文庫の会）で、零葉集としては最も新しいものであるが、紙質の参考資料として購入されたものらしかった。天平期以後の、時代ごとの筆蹟を徴する見本として恰好の資料でもある。また、巻末にある一覧表により、この種の零葉残葉の集成が、昔から多種公刊されていること、そして古活字版や浮世草子など、分野を限ったりもして多様であること等を知ったのも、この時の収穫であった。

この種の零葉集を備えることにより、書誌学や文献学はもとより、国文学の研究の参考に資することができる——そう考えて収集を希望し、購入を願った。零葉集一点ごとの値段は安くはない。しかし幸か不幸か発行（あるいは配布）部数が少なく、古書市場にたびたび姿を現わすわけでもなく、乏しい図書予算にそれほどの負担を与えることなく購入できたのではなからうか。七点ほどを現在までに入手することができた。これは内容の質を別にして、公的機関としては他に例をみない点数である、とひそかに言っている。

\*

われわれの知見に入った稀本零葉集は、今回索引の対象に取り上げた八種のほか、次のごときものがあつた

- |   |        |        |       |           |
|---|--------|--------|-------|-----------|
| A | 玉屑集    | 明44〜45 | 玉屑会   | 一二冊       |
| B | 古梓残葉   | 昭4     | 杉田大学堂 | 二冊（京大・龍大） |
| C | 古梓残葉別本 | 昭4     | 〃     | 二冊（横国大）   |

- |   |        |        |       |         |
|---|--------|--------|-------|---------|
| D | 古雕聚葉   | 昭5     | 天心洞書房 | 一冊（京大）  |
| E | 名家真蹟譜  | 昭13〜16 | 訪書会   | 一冊（国会）  |
| F | 古今紙譜   | 〃      | 〃     | 一冊（国会）  |
| G | 反故草紙   | 昭17    | 堀田菫男  | （資料館）   |
| H | 紙魚のなごり | 昭31〜44 | 和本研究会 | 五冊      |
| I | 歴代古紙聚芳 | 昭57    | 文庫の会  | 四冊（資料館） |
- これらのうちには、発行年や編者等を明らかにしないもののほか、いまだ実見の叶わないもの、種々の事情で、今回見合わざざるをえなかったものをも含んでいる（括弧内は確認できた所蔵者）。

A『玉屑集』は、当時の本好きが集まって零本を持ち寄り、零葉の交換会のごときを催したその成果であり、集古会がテーマを定めて行っていた展覧会（雑誌『集古』に目録を連載する）の分派とも言うべきもの。会員も安田善之助、三村竹清、加賀豊三郎など、重なる。『従吾所好』（明45 林若樹）はこの頒布会を記念して刊行されたもので、『玉屑集』の第一期全十二輯の総目録を付載する。また、都立中央図書館加賀文庫に同名の零葉集（全三十二冊 ○二二／G／一）を蔵するが、関連については未詳。玉屑会のもの再編集か。

B『古梓残葉』は、西村兼文の『古梓一覧』に因む標題であり、日本、中国、朝鮮の古書約四十七点の零本を集めたもの、その残りをもとに書目の一部変えて再刊したものがC『古梓残葉別本』という。D『古雕聚葉』は、江戸初期刊本を主に、和漢の零本、三十九点五十八葉を集めたもの。全篇、見事な版画仕立の装幀になり、編者の意図も、むしろ挿絵

の集成にあったらしい。

E『名家真蹟譜』は国会図書館所蔵本(七二八 一/M四四八二/H)により内容を知ることができるが、稀本零葉集というよりは、むしろ古筆手鑑に類するものであり、やや傾向を異にするところから、今回の索引には割愛した。F『古今紙譜』(国会〇二・八/Ko五四四/H)とI『歴代古紙聚芳』(資料館レ2/111)も同じである。

G『反故草紙』は資料館に一本を蔵する(ラ3/10)が、これについては一冊で終ることなく、好評を得て続刊されたとのこと。この点をいまだ確認できていないので、慎重を期して、今回は収録を見送った。H『紙魚のなごり』は、いまだ所在すら確認できないでいる。

他にも『謄本於義佳介』(昭12 三上進 内閣文庫一九九/四四一)に類する、分野を限って行った貼り交ぜ帖の数を少なしとしないであろう。また領布を目的とせず、個人が自分用に作ったもの(たとえば、安田松廼舎文庫に、西村兼文の『歴代古板譜』と題する貼り交ぜ帖を所蔵したという)もあり、これはずいぶん古い時代から存在したにちがいない。

\*

稀本零葉集は、明治末の『玉屑集』を嚆矢として始まったもの、とすることができよう。もちろんそれ以前にも個人の作った貼り交ぜ帖があり、これは個人用とはいえず、一葉のみを採って他が捨てられたはずがなく、配り本的に複数作られたかもしれない。が、領布を目的としたものでなかったところから、稀本零葉集の前史として、別枠の扱いをするの

が順当であろう。

『玉屑集』は、廃紙への運命をたどる零本を愛惜し、稀本を選んで、見本として後世に残さんがために愛書家たちが作ったものであったが、やがて零葉集の編纂、刊行は、古書売買に関係する者の集まりの引き継ぐところとなる。『蛾眉公子』の一誠堂玉屑会、『稀本零葉』『名家真蹟譜』等の訪書会のほか、和本研究会、文車の会など、いずれも和装本を扱う古書肆の店主もしくは店員の研究会である。

古書売買関係者の勉強会の産物——このことが稀本零葉集の性格を端的に物語る。添えられた解説が、零葉ごとの書誌的な条項の記述とともに、稀観の程度に言及し、古書としての時価に及ぶことも、それと無関係でなからう。また何をもって稀本とするかの、収録作品の選択についても、それが言える。

稀本零葉集は、収録した零葉を、作品あるいは版種によって分類して、配列を行う。それがない場合もあるが、いずれにしても、収録の零葉は多岐にわたるものでなく、いくつかの分類に収まってしまふ、範囲の限られたもの、とすることができよう。すなわち(1)古版経・五山版などの古版本、(2)古活字版、(3)古版地誌、(4)西鶴本、(5)浮世草子、(6)咄本、(7)絵本が分類の主な柱であり、たとえば、仮名草子、古浄瑠璃などの数は多くなく、お伽草子の採られることは稀である。もちろん零葉集ごと一様でなく、刊行の時期によりウエイトの置きかたに違いもあるが、これはつまりは、何をもって稀本とするかの、ときどきの風潮を反映したものであり、さらに言えば、古書市場における人気の反照だったのである



まいか。

他にも利用に当って心得ておかねばならないことは、いろいろある。

稀本零葉集と言つても、必ずしも稀本のすべてが備わるものでないことも、その一であろう。たとえば勅版やキリシタン版など、端本であつてもそれだけで充分に古書として通用する種類のものが載るはずがない（ただし未確認ながら、加賀文庫蔵『玉屑集』に『ざあどべかどる』の半丁が貼付されているとのこと）。また版本に比重が置かれ、写本は少ない。

一般に、古書というものは、故紙の相場に値段が左右されるもの、という。すべての古書がその通りではなからうが、こと零本に限つては、このセオリーがそのまま当てはまる。零葉集に取り上げられているものは、この種の企画にめぐり合うことがなかったとしたならば、多くが故紙回収業者に渡っていたはず、と考えてみたほうが、むしろ良からう。

ただし、そのようなたぐいのものであるにもかかわらず、いまここに取り上げた八種のうちから、倉卒の間に気づいただけでも、国文学資料として看過することのできない、いくつかの例を拾い出すことができる。

たとえばお伽草子『よし氏』（倭15）は、『国書総目録』にも『御伽草子の世界』所収の『増訂室町時代物語類現存本簡明目録』にも漏れた所在不明の一本であり、『蟹釣舟集』（稀三25）は早く散佚したと信じられていた貞門の俳書である（参照 母利稿「古逸俳書の零葉」『俳文学研究』5）。また明らかに校正刷りとするのできる、朱の書入れの見られる『洛陽名所集』（紙19）の一葉は、丁付の表示に乱れがあつて、複雑な経

緯のあつたことをうかがわせる同書初版の、出版事情の解明に寄与するであろう。

このほかにも、われわれの気付くことのなかった価値ある資料が、数多くひそんでいるに相違ない。それらの点は、それぞれ専門を異にする読者諸賢の炯眼に期待することにしたい。

\*

情報学研究者の言を俟つまでもなく、零葉はマイクロ・フィルムに増して、原本の原況を雄弁に物語る。しかしその集成である稀本零葉集は、N氏のごとき達人の一瞥を例外として、国文学の分野においては、顧みられることなく、いたずらに放置されて現在に至つたのではなかったろうか。その書目の整備、調査および収集は、いまだ不十分であつて、今回時間的余裕がなくて叶わなかつた、訪書会や文書の会など稀本零葉集の編集発刊に関わつた関係者からのヒアリング（聞き取り調査）をも含め、今後を期したく思う。が、同時に読者各位からの示教をも得たく冀うものである。

稀本零葉集は、すでに述べたごとく、零葉を一枚づつ貼るのであるから、すべて一点ごと異つたページが載る。もし貼付された零葉のうちから、従来未見の作品あるいは版種が出現した場合、その零葉集の複数に当ることができたならば、その内容を、より詳しく知ることができるのであり、もし配布の全点を検査することができたとしたならば、零本そのものの復元が可能になるはずである。国文学資料としての利用を考える

とき、古筆切を資料として扱った場合にも同様のことが言えるのであるが、断片にすぎるとは、いたずらに揣摩憶説の入り込む余地を残すことになる。われわれは『蛾眉公子』が三康図書館・天理・東京誌料・早大、『倭刊聚葉』が東京誌料・九大・天理・資料館、『紙魚玉屑集』が横浜国大・資料館、『古活字版拾葉』が天理・神原文庫（香川大）に所蔵されることを確認しているのみ。所在調査も今後の課題であって、示教を蒙りたくお願いする次第である。

（渡辺記）

書名綜合索引

あ 行

愛敬昔色好 (正徳四版か)	稀 31	伊勢物語闕疑抄 (古活字寛永頃)	聚 1	(同、上製)	稀 12
商人軍配団 (正徳二版)	稀 34	医方大成論 (元和二版)	版 46	(同、並製)	稀 13
あさがほ (寛文四版)	稀 17	今川当世状 (正徳三版)	稀 40	(延宝二版)	紙 31
飛鳥川当流男 (元禄十五版か)	蛾 39	今源氏空船 (正徳六版)	浮 28	(古活字元和頃版)	活 6
吾妻鏡		彩画職人部類 (天明四版)	稀 34・稀 612	(古活字寛永頃版)	稀 24
(古活字慶長頃版、十二行二十字)	活 18	色縮緬百人後家 (享保三版)	浮 32	栄華遊二代男 (宝暦五版)	*稀 432
(古活字慶長元和頃版、十二行二十二字)		因果物語 (刊年不明、平仮名本)	紙 8	英語箋 (文久元版)	倭 42
東鑑三代將軍 (宝永四版)	稀 6・聚 8	細紋韻府群玉 (古活字寛永二版)	聚 47	給 入 鹿兒嶋征討全記 ↓ 「カコ」 鹿兒嶋征	
蟬釣舟集 (延宝二版)	稀 325	(印信集) (古活字高野版)	稀 412	討全記	
五百崎虫の評判 (享保四版)	蛾 49	女男色遊 (正徳四版)	浮 26	易林本節用集 ↓ 「セツ」 節用集	蛾 20・稀 31
為愚痴物語 (寛文二版)	蛾 6	浮世物語 (寛文頃版)	蛾 9	江戸鹿の子 (貞享四版)	稀 28
異人恐怖伝 (享和元版)	倭 35	歌行脚懷硯 (宝暦十一版)	稀 35・稀 623	江戸雀 (延宝五版)	稀 33・紙 14
伊勢物語		謡抄	紙 23	江戸料理集 (延宝二版)	紙 36
(古活字慶長十三版、嵯峨本)		(古活字慶長頃版)	活 22	犬子集 (寛永二十一年版)	*稀 445
蛾 2・稀 17・活 5		(明暦二版)	紙 23	烏帽子折	稀 30
(寛永頃版)		謡本		(寛永頃版)	稀 15
*稀 413・版 50		(元和卯月本)	稀 214・稀 616	(寛文頃版)	倭 25
		(古活字嵯峨本、特製)	稀 11・紙 6・聚 18	絵本太閤記大全 (宝永七版)	稀 34
				円悟心要 (古活字寛永三版か)	

王秋元 蘇東坡詩集↓「トウ」東坡先生詩

大雑書 (寛永頃版)

大ぬさ (元禄十二版)

沖繩對話 (明治十三版)

おさな源氏 (寛文十版)

御伽名題紙衣 (元文三版)

御伽比丘尼 (貞享四版)

伽婢子↓「トキ」

御伽物語 (万治二版)

小野篁恋釣船 (万延二版)

和蘭語法解 (文化九版)

女諸礼集

(万治三版)

(万治三別版)

女大名丹前能 (元禄十五版)

女用訓蒙図彙 (貞享四版)

か行

海外人物輯 (嘉永七版)

新刊名公海大成付鳳対類 (万暦元版)

会稽會我物語 (正徳享保頃版か)

解体新書 (安永三版)

下学集

(元和三年版)

(元和三年杉田良庵版)

格知余論抄 (古活字元和頃版)

かけきよ (明暦四版)

入鹿児嶋征討全記

可笑記

(寛永十九年版)

(寛永頃版十二行本)

(万治二年版)

片言 (慶安三版)

科註妙法蓮華經鈔 (古活字寛永二版)

花鳥写真図彙 (文化二版)

花伝書 (古活字)

鰐金草鞋 (天保五版)

鹿の子はなし (元禄三版)

歌舞名物同異抄 (正徳五版)

鎌倉武家鑑 (正徳三版)

からいと (寛文五版)

棠大門屋敷 (宝永二版)

刈萱道心

軽口あられ酒 (宝永二版)

輕口扇のまと (享保十二版)

輕口御前男 (元禄十六版)

輕口露がはなし (元禄四版)

(輕口噺) (元禄元版か)

世当輕口咄そろへ (延宝七版)

河内名所鑑 (延宝七版)

漢書 (古活字寛永五版)

観心十二部經 (古活字元和頃版か)

堪忍記 (寛文四版)

祇園祭礼信仰記 (宝暦七版)

義経記 (古活字寛永頃版)

(古活字寛永十版)

(寛永頃版、丹緑本)

義経記 (元禄二版、金平本)

衣更着物語 (貞享五版)

其磧置土産 (元文三版)

昨日は今日の物語 (寛永八版)

歌極彩色百人一首↓「コク」極彩色

百人一首

(京町鑑) (延宝頃版)

京童 (明暦四版)

稀五 12

稀五 11

稀三 40

稀四 50

稀五 10

稀二 29

稀二 7・稀六 18・活 36

稀三 45

紙 25

倭 30

聚 31

\*稀四 1

\*稀四 14

蛾 13

蛾 5

稀一 39

稀三 10

稀四 34

稀二 28・紙 29

稀四 35

稀五 13

稀三 12・稀六 35

稀三 6・紙 5

稀三 29

錦繡段抄 (古活字元和寛永頃版)	活 28	景德伝灯録 (貞和四版)	稀 1・2・稀 6・30	好色大和咲がほ (元禄頃刊)	稀 20・稀 6・5
公平かぶとろん (天和頃版)	稀 1・49	華嚴経随疏演義抄 (正慶元版)	版 19	五家正宗贊 (古活字慶長十三版)	稀 38
訓蒙図彙 (寛文六版)	紙 3	華嚴五教章 (弘安六版)	版 13	後漢書 (古活字寛永頃版)	稀 2・8・活 37・聚 40
公事根源 (古活字元和寛永頃版)	聚 33	毛吹草 (明暦元版)	紙 1	故郷帰の江戸咄 (貞享四版)	
俱舍論頌疏愚問記 (古活字寛永頃版)	活 50	兼好一代記 (元文二版)	蛾 47・稀 27・稀 6・34	蛾 17・稀 30・稀 6・37	
熊野の本地 (寛永頃版)	稀 418	源氏小鏡		歌狂極彩色百人一首 (天明頃版)	倭 34
群書治要 (古活字元和二版)	聚 45	(古活字元和寛永頃版)	稀 317・聚 4	五元集 (宝暦二版)	倭 28
傾城色三味線 (元禄十四版)	稀 346・浮 13	(古活字寛永頃版)	聚 5	古今韻会挙要	
けいせい哥三味線 (享保十七版)	浮 38	(明暦三年版)	紙 26	(応永五版)	紙 27
契情お国歌舞伎 (享保十五版)	浮 36	源氏物語 (古活字慶長頃版)	聚 3	古今茶道全書 (元禄七版)	稀 5・6
傾城折居鶴 (享保二版)	浮 34	源平盛衰記		古今書籍題林「シヨ」書籍目録	紙 13
けいせい電照君 (享保三版か寛政頃版)	浮 33	(古活字元和寛永頃版)	聚 13	子四天王北国大合戦 (寛文二版)	稀 36・稀 6・10
傾城禁短気 (宝永八版)	蛾 44・倭 26・浮 21	(古活字寛永頃版)	聚 14	御書要文集 (古活字元和頃版)	紙 58
傾城新色三味線 (享保三版)	浮 31	(同、乱れ版)	稀 2・6・稀 6・7	御成敗式目抄 (寛永二十一版)	紙 50
けいせい手管三味線 (享保十一版)		好色伊勢物語 (貞享三版)	蛾 35	御前義経記 (元禄十三版)	稀 423
けいせい伝受紙子 (宝永七版)	稀 1・38・浮 35	好色一代男 (天和二版)	浮 1・稀 217・稀 6・6	古筆拾葉抄 (古活字寛永十二版)	活 45
傾城情の手枕 (寛保四版)	稀 40・稀 6・29	好色江戸紫 (貞享三版)	稀 1・19	古武鑑	
傾城難波土産 (宝永七版)	稀 225	好色訓蒙図彙 (貞享三版)	稀 336	(寛文十版)	稀 3・3
傾城播磨石 (宝永四版)	浮 17	好色盛衰記 (貞享五版)	蛾 24	(延宝頃版)	稀 22・稀 6・4
傾城風流杉盃 (宝永二版)	稀 1・36・浮 20	好色旅日記 (貞享四版)	稀 222	(貞享頃版)	稀 3・4
傾城武道桜 (宝永三版)	蛾 45	好色敗毒散 (元禄十六版)	稀 25・稀 6・26		
		好色文書筆 (元禄頃版)	稀 219		



(古活字慶長五版・写真)

(古活字元和九版)

匠材集 (古活字寛永頃版)

声字実相義 (鎌倉南北朝頃版)

尚書 (古活字慶長頃版)

浄土法事讀 (鎌倉中期版)

成唯識論

(承久三年版)

(南北朝頃版)

成唯識論演秘 (鎌倉初期版)

成唯識論述記

(平安末鎌倉初版)

(鎌倉初中期版)

成唯識論了義灯

(鎌倉初期版)

(鎌倉中期版)

字初 翻訳文範↓「ホン」 翻訳文範

女訓抄 (古活字寛永十六版)

諸国安見回文之絵図 (天和頃版)

諸国敵討 (元禄七版)

諸国武道氣質 (享保二版)

諸国名所百人一首 (元禄頃版)

倭 2

聚 44

活 25

稀 51

紙 48

版 14

版 7

版 21

版 3

版 1

版 8

版 2

版 4

活 23

稀 57

稀 124

浮 29

紙 44

書籍目録

増補 書籍目録 (寛文十版)

古今書籍題林 (延宝頃版)

新增書籍目録 (天和元版)

新板増補書籍目録 (元禄十二版)

諸わけ名女烟草 (元文元版)

新可笑記 (元禄元版)

新刊勿聴子俗解八十一難経 (元和三版)

新刊倭玉篇↓「ワコ」和玉篇

塵劫記

(寛永頃版、大本)

(寛永十版、中本)

新小説 (明治二十一版)

新色三ツ巴 (宝永三版)

新增書籍目録↓「シヨ」書籍目録

新体詩歌 (明治十六版)

ぢんてき問答 (古活字元和頃版)

しんとく丸 (寛文頃版)

新板増補書籍目録↓「シヨ」書籍目録

新武道伝来記 (宝永三版)

新平家物語 (元禄十六版)

人倫訓蒙図彙 (元禄三版)

稀 246

稀 515

稀 439

稀 440

浮 41

倭 7

倭 8

紙 46

倭 12

倭 50

稀 51

倭 48

稀 311

稀 436

稀 224

稀 62

稀 27

紙 37

翠釜亭戯画譜 (天明二版)

姿絵百人一首 (元禄八版)

炭俵 (享保頃版)

住吉物語 (古活字慶長頃版、写真)

清少納言枕草子↓「マク」枕草子

醒睡笑 (慶安元版)

世間侍婢氣質 (明和八版)

世間姑氣質 (明和九版)

世間旦那氣質 (安永三版)

世間母親容気 (宝曆二版)

世間胸算用 (元禄五版)

俗風 世間用心記 (明和十版)

旋氏司馬法講義 (古活字元和頃版)

雪峯空和尚外集 (貞和三版か、写真)

節用集 (慶長頃版、易林本)

前漢書↓「カン」漢書

禅儀外文集 (古活字寛永三版)

千字文↓「ヨン」四体千字文

船頭深話 (文化三版)

禅林類聚 (古活字慶長十八版)

増刊校正王状元集註分類東坡先生

詩↓「トウ」東坡先生詩

稀 447

稀 148

紙 39

倭 6

稀 37

稀 614

浮 48

浮 49

倭 50

倭 27

浮 9

浮 50

稀 348

倭 1

稀 13

版 45

活 47

倭 37

活 41

聚 50

宗祇諸国物語 (貞享二版)	紙 21	(嘉禄三版)	版 9	(古活字慶長十五版)	聚 25
鑑鏡顯府群玉↓「イン」		(文永頃版)	版 11	(古活字慶長頃版)	
増補江戸咄 (元禄七版)	蛾 19	(鎌倉中期版)	版 16	稀二五・稀六十七・紙 42	
増補書籍目録↓「シヨ」		(元弘四版)	版 20	(古活字慶長元和頃版)	活 12
挿訳英吉利会話篇 (明治五版)	倭 45	(南北朝版)	版 24	(古活字元和頃版)	活 13
曾我物語		(永徳頃版)	版 25	(古活字元和二版)	活 15・26 聚
(古活字慶長頃版)	紙 20	(室町初版)	版 27	(元和八版)	倭 10
(古活字慶長元和頃版)	聚 29	(同、別版)	版 28	(古活字寛永元版)	聚 27
(古活字寛永頃版、十一行)	活 16	(応永頃版)	版 31	(古活字寛永頃版)	倭 3・活 14 聚 28
(古活字寛永頃版、十二行)		(文安頃版)	版 35	太平記音義 (古活字慶長元和頃版)	
稀一十四・活十七・聚 30		(室町中期版)	稀三 16	太平武鑑↓「フカ」武鑑	
(寛永頃版)	稀二四・稀六 20	大般涅槃經 (古活字寛永頃版)	稀四 11	大方広仏華嚴經	
蘇悉地羯羅經 (応永二十五版)	版 32	大毘盧遮那經疏		(鎌倉中期版)	版 17
た 行		(応永頃版)	稀五 22	(貞治応安頃版)	版 22
		(元和二版)	倭 7	(室町中期版)	版 36
太閤真蹟記 (木活字版)	紙 34	大仏物語 (寛永十九版)	稀三 39	大方等大集經 (応永頃版)	版 33
大織冠 (寛永頃版)	蛾 7	太平記		大発句帳↓「ホツ」発句帖	
大蔵一覽集 (古活字慶長二十版、写真)	倭 5	(古活字慶長八版)	聚 21	誰袖海 (宝永元版)	蛾 42
大日経疏 (古活字元和頃版)	紙 49	(古活字慶長十版)	聚 22	鷹筑波集 (寛永十九版)	稀四 44
大日本いろはの始 (享保九版)	稀三 32	(古活字慶長十二版)	聚 23	武知三浦一二のあらそひ (寛文頃版)	稀一 50
大般若経		(古活字慶長十四版)		二冊 船頭深話↓「セン」船頭深話	
(高麗版)	紙 4	稀一三・活十一・聚 24		伊達髪五人男 (宝永三版)	浮 16



たはら藤太秀郷 (寛文九版)	倭 14	蛾 18・稀 30・稀 622	南都名所集 (延宝三版か)	稀 132
竹斎			南浦文集 (古活字寛永二版)	活 26
(寛永頃版)	稀 347	* 稀 428	日本異国往来記 (元禄九版)	稀 248・稀 639
(寛文頃版)	稀 421	世当 輕口咄そろへ「カル」輕口咄そろへ	日本永代蔵	
千尋日本織 (宝永四版)	稀 519	当世曾我高名松 (正徳頃版)	(貞享五版)	蛾 22・倭 22・稀 21・紙 51・浮 6
註解傷寒論 (古活字元和寛永頃版)	聚 48	当世両面鏡 (宝暦十三版)	(刊年不明版)	紙 52
忠義武道播磨石 (宝永八版)	稀 343	東坡先生詩	日本書紀	
註金師子章 (古活字元和寛永頃版)	活 46	(南北朝版)	(古活字慶長十五版、写真)	倭 4
中将姫の本地 (慶安四版)	蛾 4	(古活字慶長頃版)	(古活字慶長頃版)	活 1
勅撰名所和歌抄出 (古活字元和頃版)	活 21	洞房語園 (宝暦明和頃版)	(古活字元和寛永頃版)	稀 22
俗通 諸分床軍談 (正徳三版)	浮 25	伽婢子	日本書紀抄 (古活字慶長元和頃版)	活 2
つきしま (古活字元和頃版)	蛾 3	(寛文六版)	日本新永代蔵 (正徳三版)	稀 221
徒然草		(元禄十二版)	女用訓蒙図彙「オン」	稀 446
(古活字慶長頃版、十行)	聚 17	渡世商軍談 (正徳三版)	能仕舞手引 (元禄十版か)	稀 247・稀 633
(古活字慶長頃版、十一行)	活 20	(富松薩摩太夫正本)	能之訓蒙図彙 (貞享四版)	
(元和頃杉田良庵版)	版 49	な 行	は 行	
庭訓鈔 (古活字元和寛永頃版)	聚 20	なぞの巻 (宝永ころ版)	排韻増広事類氏族大全 (室町初期版)	
丁卯江戸鑑 (貞享四版)	稀 243・稀 613	菜花金夢台 (宝暦五版)	俳諧友ちから (元禄十六版)	稀 11・稀 624
出来齋京土産 (延宝五版)	稀 129	男色木目漬 (元禄十六版)	白氏文集 (古活字元和四版か)	活 32・聚 42
東海道敵討 (元禄十五版)	浮 12	男色大鑑 (貞享四版)		
東海道分間図 (元禄頃版)	稀 233・稀 621			
東海道名所記 (万治二版)				

八十一難経↓「シン」新刊勿聴子

俗解八十一難経

般若理趣経(天正慶長頃版)

毘沙門天王之本地(承応三版か)

びじんくらべ(万治二版)

秘蔵宝鑰(室町末版)

一目玉鉾(元禄二版)

日待ばなしこまざらひ(寛文頃版)

百人女郎品定(享保八版)

俗風世間用心記↓「セケ」世間用心記

風流飛鳥川(刊年不明)

風流今平家(元禄十六版)

風流曲三味線(宝永三版)

風流源氏物語(元禄十六版)

風流好色十二段(元禄十五版)

風流神代卷(元禄十五版)

風流友三味線(享保十八版)

風流梨花形(宝暦四版)

風流日本莊子(元禄十五版)

風流連理戀(享保二十版)

武鑑↓「コフ」古武鑑

版 41

稀 419

蛾 14

稀 55

稀 37

稀 238・稀 68

稀 147・稀 628

稀 54

蛾 30

浮 14

蛾 12・稀 17

稀 38・稀 36

蛾 29

稀 137・浮 39

浮 45

稀 518

浮 40

ふくざつしよ(貞享四版)

武家義理物語(貞享五版)

武家諸礼集(古活字寛永頃版)

富士浅間裾野桜(享保十五版)

舞台三津扇(享保七版)

仏語明要(元治元版)

仏祖歴代通載(古活字慶長十七版)

武道三国志(正徳二版)

武道伝来記(貞享四版)

武遊双級巴(元文四版)

文正草子

(承応二版)

(寛文四版)

(奈良絵本、元禄頃か)

平家物語

(元和九杉田良庵版)

(古活字元和頃仁衛門版)

(古活字元和頃版)

(古活字元和寛永頃版)

(古活字寛永五版)

(古活字寛永頃版)

稀 232

蛾 21・稀 22・稀 61・浮 5

活 24

浮 37

稀 314

倭 43

活 44

稀 425・稀 520

浮 3

浮 43

紙 45

稀 416

稀 144

版 48

聚 9

活 9

聚 11

聚 10

稀 19・活 10

(古活字寛永頃付訓植版)

(寛文頃版)

平治物語

(古活字元和寛永頃版)

(寛永三版)

碧巖録(南北朝版)

宝永忠信物語(宝永二版)

保元軍物語(元禄宝永頃版)

幣留金草鞋↓「カネ」金草鞋

保元物語

(古活字元和四版)

(寛永三版)

北条九代記(元禄十二版)

北条五代記

簞篋(古活字寛永五版か)

法華経↓「ミヨ」妙法蓮華経

保赤全書(古活字寛永元版)

補註蒙求↓「モウ」蒙求

北郭鶏卵方(寛政六版)

発句帖(寛文六版)

法華玄義(古活字元和四版)

活 8・聚 7

紙 41

稀 334

浮 15

稀 517

聚 6

蛾 1・紙 40

稀 341

\*稀 437

紙 33

活 39・聚 49

倭 37

紙 54

活 48

稀 49・紙 15

法華文句 (古活字元和寛永頃版)	稀一・四・活49	都ひるながた (元禄四版)	稀三19	ものくさ太郎 (寛文延宝頃版か)	稀四15
本朝桜陰比事 (元禄二版)	稀二18・紙9・浮8	都 <sup>部</sup> 露休しかた咄↓「ロキ」露休しかた咄		文選 (古活字慶長十二版)	
本朝廿四孝 (元禄十版)	稀四22	妙法蓮華經			稀一5・稀六31・活30
本朝浜千鳥 (宝永四版)	蛾36	(平安末鎌倉初写)	稀二50	や 行	
本朝風土記国名 (慶安四版)	倭16	(鎌倉中期版)	版15	役者胎内搜 (宝永六版)	稀三26
本朝列女伝 (寛文八版)	紙16	(鎌倉中後期版)	稀三15	野傾咲分色存 (享保三版)	浮30
本朝列仙伝 (貞享三版)	紙22	(南北朝版)	版26	野傾旅葛籠	
(梵文) (寛文九版)	倭20	(室町初期版)	稀三22	(正徳二版)	
梵網經古迹記 (正安四版)	版18	(室町中期版)	版29	八棟大島台 (宝永七版)	蛾43・稀四26
初 <sup>字</sup> 翻訳文範 (明治十六版)	倭49	(室町末期版)	版37	野白内証鑑 (宝永七版)	稀一41
ま 行		妙法蓮華經玄義↓「ホツ」法華玄義	版38	破れ家のつくり話 (弘化四版)	浮18
枕草子 (古活字寛永頃版)	活7	妙法蓮華經文句↓「ホツ」法華文句		山城名所寺社物語 (享保頃版)	倭40
松の落葉 (宝永七版)	稀二40・稀六19	夢中間答集 (古活字元和寛永頃版)	活27	大和絵づくし (延宝八版)	稀一33
松の葉 (元禄十六版)	稀二39	名医類案 (古活字慶長元和頃版)	稀四7	大和物語 (古活字元和頃版)	稀二31
まつら長者 (享保頃版)	稀三21	名女情比 (延宝九版)	稀二16・稀六9	山中常盤 (古活字慶長元和頃版)	稀一3・稀六3・聚2
満仲 (延宝頃版)	蛾16	蒙求 (古活字慶長頃版)	活31・聚46	維摩經略疏 (古活字元和二版)	稀一10・稀六27
万葉集		毛詩		瑜伽師地論 (建曆三版)	版5・6
(古活字慶長頃版、無訓)	活3	(古活字慶長頃版)	活34・聚36	やうめい天王恋のまき (元禄頃版)	稀二35
(古活字慶長元和頃、付訓)	活4	(古活字慶長頃、別版)	活35		
みなしくり (天和三版)	倭21	孟子 (慶長頃版)	紙38		
都花摘 (刊年不明)	稀一26	孟子抄 (古活字)	*稀四4		

横浜吉原細見 (明治二版)	倭 44	郷 露休しかた咄 (刊年不明)	稀 514
よし氏 (寛永正保頃版)	倭 15	六阿弥陀伝記 (明暦頃版)	蛾 8
義貞艶軍配 (寛延二版)	稀 427	論語	
義経風流鑑		(天文二版)	稀 21
(正徳五版)	蛾 48・浮 27	(古活字慶長頃版)	稀 35
(明和四版)	稀 26	わ 行	
よだれかけ (版年不明)	稀 215	和歌食物本草 (寛永七版)	倭 11
頼朝三代鎌倉記 (正徳二版)	浮 22	分里艶行脚 (正徳六版)	蛾 46
四体千字文		和国諸職絵尽 (貞享二版)	稀 43
(慶長九版)	紙 18	和国百女 (元禄八版)	稀 42
(慶長十一・春枝版)	稀 249・稀 641	倭玉篇	稀 342
(慶長十一金宣版)	版 42	(慶長十五版か)	
ら 行		(慶長十八版)	紙 30・版 43
洛陽名所集 (万治二版)	紙 19	(寛永頃版)	倭 18
蘭学階梯 (天明八版)	倭 33	(正保三版)	紙 7
乱曲 (寛文八版)	倭 19	*	
立華訓蒙図彙 (元禄八版)	紙 55		
隆興仏教編年通論 (古活字寛永頃版)	稀 35	「逸題浮世草子」 (元禄七版)	稀 39
類字名所和歌集 (古活字元和頃版)	聚 34		
類証弁異全九集 (古活字元和頃版)	紙 57		
歴代帝王紹運図 (室町初期版)	版 30		